

第 10 章 対象事業に係る環境影響の 総合評価

第10章 対象事業に係る環境影響の総合評価

10.1 対象事業に係る環境影響の総合的な評価

各項目の調査、予測及び評価の結果ならびに環境影響評価の過程において検討した環境保全措置を実施することにより、対象事業による環境への影響は事業者により実行可能な範囲内で行えるかぎり回避・低減・最小化が図られ、環境の保全についての配慮が適正になされていると評価する。

10.2 調査、予測、評価及び環境保全措置の概要

調査、予測、評価及び環境保全措置の概要を表 10.2.1～表 10.2.13 に示す。

表 10.2.1 環境影響評価結果の概要（大気質）（1/6）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																		
大気質	工事の実施 建設機械の稼働	<p>建設機械の稼働に伴う季節別降下ばいじん量の調査・予測結果を下表に示す。</p> <table border="1" data-bbox="454 347 1317 539"> <caption>季節別降下ばいじん量調査・予測結果</caption> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="4">調査結果 (t/km²/月)</th> <th colspan="4">予測結果 (t/km²/月)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">最大着地量地点</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6.6</td> <td>9.3</td> <td>8.4</td> <td>7.7</td> <td rowspan="3">10 以下</td> </tr> <tr> <td>St.1</td> <td>対象事業実施区域</td> <td>2.12</td> <td>1.71</td> <td>3.09</td> <td>3.11</td> <td>4.8</td> <td>7.5</td> <td>4.1</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>St.2</td> <td>YOU なかの保育園付近</td> <td>3.78</td> <td>7.65</td> <td>3.34</td> <td>5.43</td> <td>1.4</td> <td>1.8</td> <td>1.3</td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>発生源である対象事業実施区域からの距離に近い地点ほど降下ばいじん量が高くなっていた。また、いずれの地点も評価基準を満足していた。</p>	予測地点		調査結果 (t/km ² /月)				予測結果 (t/km ² /月)				評価基準	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	最大着地量地点		-	-	-	-	6.6	9.3	8.4	7.7	10 以下	St.1	対象事業実施区域	2.12	1.71	3.09	3.11	4.8	7.5	4.1	3.1	St.2	YOU なかの保育園付近	3.78	7.65	3.34	5.43	1.4	1.8	1.3	1.1	<ul style="list-style-type: none"> 排出ガス対策型建設機械を使用する。 対象事業実施区域周辺に仮囲い等を設置する。 対象事業実施区域内にて適宜散水を行う。 建設機械の点検・整備を十分に行う。 アイドリングストップや空ぶかしの防止を徹底する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記の環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で大気質への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、いずれの地点、季節においても評価基準を満足している。また、最大着地量地点は、対象事業実施区域内であり、直近の保全対象施設である YOU なかの保育園付近の予測結果は、評価基準に対し十分に低い値となっている。これらのことから、建設機械の稼働による大気質への影響は、評価の基準との整合性が図られていると考える。</p> <p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成 11 年、建設省）に示される参考値
予測地点		調査結果 (t/km ² /月)				予測結果 (t/km ² /月)				評価基準																																												
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季																																													
最大着地量地点		-	-	-	-	6.6	9.3	8.4	7.7	10 以下																																												
St.1	対象事業実施区域	2.12	1.71	3.09	3.11	4.8	7.5	4.1	3.1																																													
St.2	YOU なかの保育園付近	3.78	7.65	3.34	5.43	1.4	1.8	1.3	1.1																																													

表 10.2.1 環境影響評価結果の概要（大気質）（2/6）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																																																																																																																														
大気質	工事の実施 資材等運搬車両の運行	<p>資材等運搬車両の運行に伴う大気質の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">二酸化窒素、浮遊粒子状物質調査・予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG) 濃度</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>年平均値 (BG+寄与)</th> <th>日平均値の年間 98%値又は2% 除外値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">二酸化窒素 (ppm)</td> <td rowspan="2">No. 1</td> <td rowspan="2">南 6-79 号線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00525</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00526</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00537</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00538</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00533</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00558</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td colspan="2">東新潟病院前</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00526</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td colspan="2">東新潟病院前</td> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00537</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">浮遊粒子状 物質(mg/m³)</td> <td rowspan="2">No. 1</td> <td rowspan="2">南 6-79 号線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.012</td> <td>0.012014</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.012</td> <td>0.012014</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.011</td> <td>0.011018</td> <td>0.031</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.011</td> <td>0.011019</td> <td>0.031</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.012</td> <td>0.012014</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.012</td> <td>0.012023</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td colspan="2">東新潟病院前</td> <td>予測位置</td> <td>0.011</td> <td>0.011013</td> <td>0.031</td> </tr> <tr> <td colspan="2">東新潟病院前</td> <td>反対側</td> <td>0.011</td> <td>0.011017</td> <td>0.031</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">季節別降下ばいじん量予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="4">予測結果 (t/km²/月)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">季節別降下 ばいじん量 (t/km²/月)</td> <td rowspan="2">No. 1</td> <td rowspan="2">南 6-79 号線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.35</td> <td>0.33</td> <td>0.40</td> <td>0.22</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.30</td> <td>0.43</td> <td>0.38</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.42</td> <td>0.39</td> <td>0.34</td> <td>0.24</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.31</td> <td>0.51</td> <td>0.55</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.10</td> <td>0.14</td> <td>0.19</td> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.43</td> <td>0.48</td> <td>0.35</td> <td>0.24</td> </tr> <tr> <td colspan="2">東新潟病院前</td> <td>予測位置</td> <td>0.17</td> <td>0.25</td> <td>0.34</td> <td>0.27</td> </tr> <tr> <td colspan="2">東新潟病院前</td> <td>反対側</td> <td>0.42</td> <td>0.45</td> <td>0.33</td> <td>0.23</td> </tr> </tbody> </table> <p>二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び季節別降下ばいじん量の予測結果は、いずれの地点も評価基準を満足していた。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		現況(バックグラウンド;BG) 濃度	予測結果		評価基準	年平均値 (BG+寄与)	日平均値の年間 98%値又は2% 除外値	二酸化窒素 (ppm)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.005	0.00525	0.016	反対側	0.005	0.00526	0.016	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.005	0.00537	0.016	反対側	0.005	0.00538	0.016	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.005	0.00533	0.016	反対側	0.005	0.00558	0.016	東新潟病院前		予測位置	0.005	0.00526	0.016	東新潟病院前		反対側	0.005	0.00537	0.016	浮遊粒子状 物質(mg/m ³)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.012	0.012014	0.033	反対側	0.012	0.012014	0.033	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.011	0.011018	0.031	反対側	0.011	0.011019	0.031	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.012	0.012014	0.033	反対側	0.012	0.012023	0.033	東新潟病院前		予測位置	0.011	0.011013	0.031	東新潟病院前		反対側	0.011	0.011017	0.031	予測項目 (単位)	予測地点		予測結果 (t/km ² /月)				評価基準	春季	夏季	秋季	冬季	季節別降下 ばいじん量 (t/km ² /月)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.35	0.33	0.40	0.22	反対側	0.30	0.43	0.38	0.35	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.42	0.39	0.34	0.24	反対側	0.31	0.51	0.55	0.44	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.10	0.14	0.19	0.15	反対側	0.43	0.48	0.35	0.24	東新潟病院前		予測位置	0.17	0.25	0.34	0.27	東新潟病院前		反対側	0.42	0.45	0.33	0.23	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域内に洗車場を設け、タイヤに付着した泥土を洗浄する。 排出ガス規制適合車の使用を励行する。 車両の点検・整備を十分に行う。 道路交通法の遵守するとともに、アイドリングストップや空ぶかしの防止を徹底する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記の環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で大気質への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、いずれの項目においても全ての地点において評価基準を満足しており、評価基準との整合性が図られていると考える。</p> <p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二酸化窒素に係る環境基準 大気の汚染に係る環境基準 「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成 11 年、建設省）に示される参考値
		予測項目 (単位)					予測地点			現況(バックグラウンド;BG) 濃度	予測結果				評価基準																																																																																																																																																			
			年平均値 (BG+寄与)	日平均値の年間 98%値又は2% 除外値																																																																																																																																																														
		二酸化窒素 (ppm)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.005	0.00525	0.016																																																																																																																																																										
					反対側	0.005	0.00526	0.016																																																																																																																																																										
			No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.005	0.00537	0.016																																																																																																																																																										
					反対側	0.005	0.00538	0.016																																																																																																																																																										
			No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.005	0.00533	0.016																																																																																																																																																										
					反対側	0.005	0.00558	0.016																																																																																																																																																										
		東新潟病院前		予測位置	0.005	0.00526	0.016																																																																																																																																																											
東新潟病院前		反対側	0.005	0.00537	0.016																																																																																																																																																													
浮遊粒子状 物質(mg/m ³)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.012	0.012014	0.033																																																																																																																																																												
			反対側	0.012	0.012014	0.033																																																																																																																																																												
	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.011	0.011018	0.031																																																																																																																																																												
			反対側	0.011	0.011019	0.031																																																																																																																																																												
	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.012	0.012014	0.033																																																																																																																																																												
			反対側	0.012	0.012023	0.033																																																																																																																																																												
	東新潟病院前		予測位置	0.011	0.011013	0.031																																																																																																																																																												
	東新潟病院前		反対側	0.011	0.011017	0.031																																																																																																																																																												
	予測項目 (単位)	予測地点		予測結果 (t/km ² /月)				評価基準																																																																																																																																																										
				春季	夏季	秋季	冬季																																																																																																																																																											
季節別降下 ばいじん量 (t/km ² /月)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.35	0.33	0.40	0.22																																																																																																																																																											
			反対側	0.30	0.43	0.38	0.35																																																																																																																																																											
	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.42	0.39	0.34	0.24																																																																																																																																																											
			反対側	0.31	0.51	0.55	0.44																																																																																																																																																											
	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.10	0.14	0.19	0.15																																																																																																																																																											
			反対側	0.43	0.48	0.35	0.24																																																																																																																																																											
	東新潟病院前		予測位置	0.17	0.25	0.34	0.27																																																																																																																																																											
	東新潟病院前		反対側	0.42	0.45	0.33	0.23																																																																																																																																																											

表 10.2.1 環境影響評価結果の概要（大気質）（3/6）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																																																																																																																														
大気質	土地又は工作物の存在及び供用 施設の稼働（煙突からの排出ガス）	<p>(1) 長期平均濃度予測 施設の稼働に伴う大気質の長期平均濃度予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">長期平均濃度予測結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG)濃度</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>年平均値 (BG+寄与)</th> <th>日平均値年間98% 値又は2%除外値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.001</td> <td>0.001069</td> <td>0.003</td> <td rowspan="7">1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であること。</td> </tr> <tr> <td>St.1 対象事業実施区域</td> <td>0.001</td> <td>0.001011</td> <td>0.003</td> </tr> <tr> <td>St.2 YOU なかの保育園付近</td> <td>0.001</td> <td>0.001014</td> <td>0.003</td> </tr> <tr> <td>St.3 五月町第二開発公園</td> <td>0.001</td> <td>0.001038</td> <td>0.003</td> </tr> <tr> <td>St.4 石山居村公園</td> <td>0.001</td> <td>0.001032</td> <td>0.003</td> </tr> <tr> <td>St.5 山二ツソフトボール場</td> <td>0.001</td> <td>0.001045</td> <td>0.003</td> </tr> <tr> <td>St.6 新潟向陽高校</td> <td>0.001</td> <td>0.001063</td> <td>0.003</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">二酸化窒素 (ppm)</td> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.004</td> <td>0.004105</td> <td>0.011</td> <td rowspan="7">1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。</td> </tr> <tr> <td>St.1 対象事業実施区域</td> <td>0.004</td> <td>0.004011</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td>St.2 YOU なかの保育園付近</td> <td>0.004</td> <td>0.004015</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td>St.3 五月町第二開発公園</td> <td>0.004</td> <td>0.004051</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td>St.4 石山居村公園</td> <td>0.004</td> <td>0.004042</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td>St.5 山二ツソフトボール場</td> <td>0.004</td> <td>0.004062</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td>St.6 新潟向陽高校</td> <td>0.004</td> <td>0.004094</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.01</td> <td>0.010034</td> <td>0.027</td> <td rowspan="7">1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ1時間値が0.20 mg/m³以下であること。</td> </tr> <tr> <td>St.1 対象事業実施区域</td> <td>0.01</td> <td>0.010006</td> <td>0.027</td> </tr> <tr> <td>St.2 YOU なかの保育園付近</td> <td>0.01</td> <td>0.010007</td> <td>0.027</td> </tr> <tr> <td>St.3 五月町第二開発公園</td> <td>0.01</td> <td>0.010019</td> <td>0.027</td> </tr> <tr> <td>St.4 石山居村公園</td> <td>0.01</td> <td>0.010016</td> <td>0.027</td> </tr> <tr> <td>St.5 山二ツソフトボール場</td> <td>0.01</td> <td>0.010022</td> <td>0.027</td> </tr> <tr> <td>St.6 新潟向陽高校</td> <td>0.01</td> <td>0.010031</td> <td>0.027</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.008</td> <td>0.008344</td> <td>—</td> <td rowspan="7">年平均値が0.6 pg-TEQ/m³以下であること。</td> </tr> <tr> <td>St.1 対象事業実施区域</td> <td>0.008</td> <td>0.008056</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.2 YOU なかの保育園付近</td> <td>0.008</td> <td>0.008072</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.3 五月町第二開発公園</td> <td>0.008</td> <td>0.008189</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.4 石山居村公園</td> <td>0.008</td> <td>0.008162</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.5 山二ツソフトボール場</td> <td>0.008</td> <td>0.008224</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.6 新潟向陽高校</td> <td>0.008</td> <td>0.008315</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">水銀 (μg/m³)</td> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.0016</td> <td>0.001703</td> <td>—</td> <td rowspan="7">年平均値が0.04 μg/m³以下であること。</td> </tr> <tr> <td>St.1 対象事業実施区域</td> <td>0.0016</td> <td>0.001617</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.2 YOU なかの保育園付近</td> <td>0.0016</td> <td>0.001622</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.3 五月町第二開発公園</td> <td>0.0016</td> <td>0.001657</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.4 石山居村公園</td> <td>0.0016</td> <td>0.001649</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.5 山二ツソフトボール場</td> <td>0.0016</td> <td>0.001667</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>St.6 新潟向陽高校</td> <td>0.0016</td> <td>0.001694</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	予測項目 (単位)	予測地点	現況(バックグラウンド;BG)濃度	予測結果		評価基準	年平均値 (BG+寄与)	日平均値年間98% 値又は2%除外値	二酸化硫黄 (ppm)	最大着地濃度地点	0.001	0.001069	0.003	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であること。	St.1 対象事業実施区域	0.001	0.001011	0.003	St.2 YOU なかの保育園付近	0.001	0.001014	0.003	St.3 五月町第二開発公園	0.001	0.001038	0.003	St.4 石山居村公園	0.001	0.001032	0.003	St.5 山二ツソフトボール場	0.001	0.001045	0.003	St.6 新潟向陽高校	0.001	0.001063	0.003	二酸化窒素 (ppm)	最大着地濃度地点	0.004	0.004105	0.011	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	St.1 対象事業実施区域	0.004	0.004011	0.011	St.2 YOU なかの保育園付近	0.004	0.004015	0.011	St.3 五月町第二開発公園	0.004	0.004051	0.011	St.4 石山居村公園	0.004	0.004042	0.011	St.5 山二ツソフトボール場	0.004	0.004062	0.011	St.6 新潟向陽高校	0.004	0.004094	0.011	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	最大着地濃度地点	0.01	0.010034	0.027	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ1時間値が0.20 mg/m ³ 以下であること。	St.1 対象事業実施区域	0.01	0.010006	0.027	St.2 YOU なかの保育園付近	0.01	0.010007	0.027	St.3 五月町第二開発公園	0.01	0.010019	0.027	St.4 石山居村公園	0.01	0.010016	0.027	St.5 山二ツソフトボール場	0.01	0.010022	0.027	St.6 新潟向陽高校	0.01	0.010031	0.027	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	最大着地濃度地点	0.008	0.008344	—	年平均値が0.6 pg-TEQ/m ³ 以下であること。	St.1 対象事業実施区域	0.008	0.008056	—	St.2 YOU なかの保育園付近	0.008	0.008072	—	St.3 五月町第二開発公園	0.008	0.008189	—	St.4 石山居村公園	0.008	0.008162	—	St.5 山二ツソフトボール場	0.008	0.008224	—	St.6 新潟向陽高校	0.008	0.008315	—	水銀 (μg/m ³)	最大着地濃度地点	0.0016	0.001703	—	年平均値が0.04 μg/m ³ 以下であること。	St.1 対象事業実施区域	0.0016	0.001617	—	St.2 YOU なかの保育園付近	0.0016	0.001622	—	St.3 五月町第二開発公園	0.0016	0.001657	—	St.4 石山居村公園	0.0016	0.001649	—	St.5 山二ツソフトボール場	0.0016	0.001667	—	St.6 新潟向陽高校	0.0016	0.001694	—	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガス中の汚染物質濃度について、法令に定める規制基準等と同等、もしくはより厳しい自主基準値を定め、排ガス及び運転状態の常時監視を行う。 ・施設の点検、整備を十分に行う。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 施設の保全や運転を適正に行うことにより、事業者の実行可能な範囲で大気質への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、いずれの項目も評価基準を下回っており、評価の基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気の汚染に係る環境基準 ・二酸化窒素に係る環境基準 ・ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準 ・有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値（平成 15 年 7 月、中央環境審議会） ・短期暴露指針値（昭和 53 年、中央公害対策審議会答申） ・大気汚染防止法に基づく窒素酸化物の排出基準の改定等について（昭和 52 年、環大規第 136 号）
		予測項目 (単位)				予測地点	現況(バックグラウンド;BG)濃度		予測結果			評価基準																																																																																																																																																						
			年平均値 (BG+寄与)	日平均値年間98% 値又は2%除外値																																																																																																																																																														
		二酸化硫黄 (ppm)	最大着地濃度地点	0.001	0.001069	0.003	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であること。																																																																																																																																																											
			St.1 対象事業実施区域	0.001	0.001011	0.003																																																																																																																																																												
			St.2 YOU なかの保育園付近	0.001	0.001014	0.003																																																																																																																																																												
			St.3 五月町第二開発公園	0.001	0.001038	0.003																																																																																																																																																												
			St.4 石山居村公園	0.001	0.001032	0.003																																																																																																																																																												
			St.5 山二ツソフトボール場	0.001	0.001045	0.003																																																																																																																																																												
			St.6 新潟向陽高校	0.001	0.001063	0.003																																																																																																																																																												
		二酸化窒素 (ppm)	最大着地濃度地点	0.004	0.004105	0.011	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。																																																																																																																																																											
			St.1 対象事業実施区域	0.004	0.004011	0.011																																																																																																																																																												
			St.2 YOU なかの保育園付近	0.004	0.004015	0.011																																																																																																																																																												
			St.3 五月町第二開発公園	0.004	0.004051	0.011																																																																																																																																																												
			St.4 石山居村公園	0.004	0.004042	0.011																																																																																																																																																												
			St.5 山二ツソフトボール場	0.004	0.004062	0.011																																																																																																																																																												
			St.6 新潟向陽高校	0.004	0.004094	0.011																																																																																																																																																												
		浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	最大着地濃度地点	0.01	0.010034	0.027	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ1時間値が0.20 mg/m ³ 以下であること。																																																																																																																																																											
			St.1 対象事業実施区域	0.01	0.010006	0.027																																																																																																																																																												
			St.2 YOU なかの保育園付近	0.01	0.010007	0.027																																																																																																																																																												
St.3 五月町第二開発公園	0.01		0.010019	0.027																																																																																																																																																														
St.4 石山居村公園	0.01		0.010016	0.027																																																																																																																																																														
St.5 山二ツソフトボール場	0.01		0.010022	0.027																																																																																																																																																														
St.6 新潟向陽高校	0.01		0.010031	0.027																																																																																																																																																														
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	最大着地濃度地点	0.008	0.008344	—	年平均値が0.6 pg-TEQ/m ³ 以下であること。																																																																																																																																																													
	St.1 対象事業実施区域	0.008	0.008056	—																																																																																																																																																														
	St.2 YOU なかの保育園付近	0.008	0.008072	—																																																																																																																																																														
	St.3 五月町第二開発公園	0.008	0.008189	—																																																																																																																																																														
	St.4 石山居村公園	0.008	0.008162	—																																																																																																																																																														
	St.5 山二ツソフトボール場	0.008	0.008224	—																																																																																																																																																														
	St.6 新潟向陽高校	0.008	0.008315	—																																																																																																																																																														
水銀 (μg/m ³)	最大着地濃度地点	0.0016	0.001703	—	年平均値が0.04 μg/m ³ 以下であること。																																																																																																																																																													
	St.1 対象事業実施区域	0.0016	0.001617	—																																																																																																																																																														
	St.2 YOU なかの保育園付近	0.0016	0.001622	—																																																																																																																																																														
	St.3 五月町第二開発公園	0.0016	0.001657	—																																																																																																																																																														
	St.4 石山居村公園	0.0016	0.001649	—																																																																																																																																																														
	St.5 山二ツソフトボール場	0.0016	0.001667	—																																																																																																																																																														
	St.6 新潟向陽高校	0.0016	0.001694	—																																																																																																																																																														
		(次頁に続く)	(次頁に続く)	(次頁に続く)																																																																																																																																																														

表 10.2.1 環境影響評価結果の概要（大気質）（4/6）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																																																												
大気質	土地又は工作物の存在及び供用	<p>(前頁から続く)</p> <p>最大着地濃度地点は、対象事業実施区域から東に約 780m の位置であった。また、いずれの項目も、すべての予測地点において、評価基準を満足していた。</p> <p>(2) 短期高濃度予測 施設の稼働に伴う大気質の短期高濃度予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">短期高濃度予測結果</p> <table border="1" data-bbox="365 515 1406 1136"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測ケース (気象条件)</th> <th rowspan="2">予測項目(単位)</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG)濃度</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>1時間値 (BG+寄与)</th> <th>最大着地濃度地点の発生源からの距離(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">①大気安定度不安定時</td> <td>二酸化硫黄(ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.00466</td> <td>780</td> <td>1時間値が0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素(ppm)</td> <td>0.025</td> <td>0.02601</td> <td>780</td> <td>1時間暴露として0.1~0.2</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質(mg/m³)</td> <td>0.058</td> <td>0.05933</td> <td>780</td> <td>1時間値が0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素(ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.00699</td> <td>780</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">②上層逆転層発生時</td> <td>二酸化硫黄(ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.00734</td> <td>780</td> <td>1時間値が0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素(ppm)</td> <td>0.025</td> <td>0.02725</td> <td>780</td> <td>1時間暴露として0.1~0.2</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質(mg/m³)</td> <td>0.058</td> <td>0.06067</td> <td>780</td> <td>1時間値が0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素(ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.01102</td> <td>780</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">③逆転層崩壊時</td> <td>二酸化硫黄(ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.00991</td> <td>270</td> <td>1時間値が0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素(ppm)</td> <td>0.025</td> <td>0.03666</td> <td>270</td> <td>1時間暴露として0.1~0.2</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質(mg/m³)</td> <td>0.058</td> <td>0.06196</td> <td>270</td> <td>1時間値が0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素(ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.01487</td> <td>270</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">④ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時</td> <td>二酸化硫黄(ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.00358</td> <td>660</td> <td>1時間値が0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素(ppm)</td> <td>0.025</td> <td>0.02554</td> <td>660</td> <td>1時間暴露として0.1~0.2</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質(mg/m³)</td> <td>0.058</td> <td>0.05879</td> <td>660</td> <td>1時間値が0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素(ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.00538</td> <td>660</td> <td>0.02以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>最大着地濃度地点は、予測ケース①及び②で対象事業実施区域から約 780m、③で約 270m、④で約 660m の位置であった。また、いずれの項目も、すべての予測ケースにおいて、評価基準を満足していた。</p>	予測ケース (気象条件)	予測項目(単位)	現況(バックグラウンド;BG)濃度	予測結果		評価基準	1時間値 (BG+寄与)	最大着地濃度地点の発生源からの距離(m)	①大気安定度不安定時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00466	780	1時間値が0.1以下	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.02601	780	1時間暴露として0.1~0.2	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.05933	780	1時間値が0.20以下	塩化水素(ppm)	0.003	0.00699	780	0.02以下	②上層逆転層発生時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00734	780	1時間値が0.1以下	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.02725	780	1時間暴露として0.1~0.2	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.06067	780	1時間値が0.20以下	塩化水素(ppm)	0.003	0.01102	780	0.02以下	③逆転層崩壊時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00991	270	1時間値が0.1以下	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.03666	270	1時間暴露として0.1~0.2	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.06196	270	1時間値が0.20以下	塩化水素(ppm)	0.003	0.01487	270	0.02以下	④ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00358	660	1時間値が0.1以下	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.02554	660	1時間暴露として0.1~0.2	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.05879	660	1時間値が0.20以下	塩化水素(ppm)	0.003	0.00538	660	0.02以下	(前頁から続く)	(前頁から続く)
予測ケース (気象条件)	予測項目(単位)	現況(バックグラウンド;BG)濃度				予測結果			評価基準																																																																																							
			1時間値 (BG+寄与)	最大着地濃度地点の発生源からの距離(m)																																																																																												
①大気安定度不安定時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00466	780	1時間値が0.1以下																																																																																											
	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.02601	780	1時間暴露として0.1~0.2																																																																																											
	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.05933	780	1時間値が0.20以下																																																																																											
	塩化水素(ppm)	0.003	0.00699	780	0.02以下																																																																																											
②上層逆転層発生時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00734	780	1時間値が0.1以下																																																																																											
	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.02725	780	1時間暴露として0.1~0.2																																																																																											
	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.06067	780	1時間値が0.20以下																																																																																											
	塩化水素(ppm)	0.003	0.01102	780	0.02以下																																																																																											
③逆転層崩壊時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00991	270	1時間値が0.1以下																																																																																											
	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.03666	270	1時間暴露として0.1~0.2																																																																																											
	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.06196	270	1時間値が0.20以下																																																																																											
	塩化水素(ppm)	0.003	0.01487	270	0.02以下																																																																																											
④ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時	二酸化硫黄(ppm)	0.002	0.00358	660	1時間値が0.1以下																																																																																											
	二酸化窒素(ppm)	0.025	0.02554	660	1時間暴露として0.1~0.2																																																																																											
	浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.058	0.05879	660	1時間値が0.20以下																																																																																											
	塩化水素(ppm)	0.003	0.00538	660	0.02以下																																																																																											

表 10.2.1 環境影響評価結果の概要（大気質）（5/6）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																																																																																																																							
大気質	土地又は工作物の存在及び供用	<p>廃棄物運搬車両の運行に伴う大気質の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">二酸化窒素、浮遊粒子状物質の調査・予測結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG) 濃度</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>年平均値 (BG+寄与)</th> <th>日平均値の年間 98%値又は2% 除外値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">二酸化窒素 (ppm)</td> <td rowspan="2">No. 1</td> <td rowspan="2">南 6-79 号線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00535</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00536</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00536</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00537</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00532</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00555</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 4</td> <td rowspan="2">新施設西側 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00522</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00520</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 5</td> <td rowspan="2">新施設東側 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00507</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00506</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 6</td> <td rowspan="2">新潟新津線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00526</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00532</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td colspan="2" rowspan="2">東新潟病院前</td> <td>予測位置</td> <td>0.005</td> <td>0.00526</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.005</td> <td>0.00536</td> <td>0.016</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">浮遊粒子状 物質(mg/m³)</td> <td rowspan="2">No. 1</td> <td rowspan="2">南 6-79 号線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.012</td> <td>0.012018</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.012</td> <td>0.012019</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.011</td> <td>0.011018</td> <td>0.031</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.011</td> <td>0.011018</td> <td>0.031</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.012</td> <td>0.012014</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.012</td> <td>0.012022</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 4</td> <td rowspan="2">新施設西側 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.012</td> <td>0.012009</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.012</td> <td>0.012008</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 5</td> <td rowspan="2">新施設東側 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.012</td> <td>0.012004</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.012</td> <td>0.012004</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 6</td> <td rowspan="2">新潟新津線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.012</td> <td>0.012011</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.012</td> <td>0.012013</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td colspan="2" rowspan="2">東新潟病院前</td> <td>予測位置</td> <td>0.011</td> <td>0.011012</td> <td>0.031</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.011</td> <td>0.011016</td> <td>0.031</td> </tr> </tbody> </table>	予測項目 (単位)	予測地点		現況(バックグラウンド;BG) 濃度	予測結果		評価基準	年平均値 (BG+寄与)	日平均値の年間 98%値又は2% 除外値	二酸化窒素 (ppm)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.005	0.00535	0.016	反対側	0.005	0.00536	0.016	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.005	0.00536	0.016	反対側	0.005	0.00537	0.016	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.005	0.00532	0.016	反対側	0.005	0.00555	0.016	No. 4	新施設西側 沿道	予測位置	0.005	0.00522	0.016	反対側	0.005	0.00520	0.016	No. 5	新施設東側 沿道	予測位置	0.005	0.00507	0.016	反対側	0.005	0.00506	0.016	No. 6	新潟新津線 沿道	予測位置	0.005	0.00526	0.016	反対側	0.005	0.00532	0.016	東新潟病院前		予測位置	0.005	0.00526	0.016	反対側	0.005	0.00536	0.016	浮遊粒子状 物質(mg/m ³)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.012	0.012018	0.033	反対側	0.012	0.012019	0.033	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.011	0.011018	0.031	反対側	0.011	0.011018	0.031	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.012	0.012014	0.033	反対側	0.012	0.012022	0.033	No. 4	新施設西側 沿道	予測位置	0.012	0.012009	0.033	反対側	0.012	0.012008	0.033	No. 5	新施設東側 沿道	予測位置	0.012	0.012004	0.033	反対側	0.012	0.012004	0.033	No. 6	新潟新津線 沿道	予測位置	0.012	0.012011	0.033	反対側	0.012	0.012013	0.033	東新潟病院前		予測位置	0.011	0.011012	0.031	反対側	0.011	0.011016	0.031	<ul style="list-style-type: none"> ・排出ガス規制適合車の使用を励行する。 ・車両の十分な点検・整備を求める。 ・道路交通法の遵守及びアイドリングストップや空ぶかしの防止を徹底する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で大気質への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、いずれの項目も評価基準を下回っており、評価の基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化窒素に係る環境基準 ・大気の汚染に係る環境基準 ・「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」(平成 11 年、建設省)に示される参考値
		予測項目 (単位)					予測地点			現況(バックグラウンド;BG) 濃度	予測結果				評価基準																																																																																																																																												
年平均値 (BG+寄与)	日平均値の年間 98%値又は2% 除外値																																																																																																																																																										
二酸化窒素 (ppm)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.005	0.00535	0.016																																																																																																																																																					
			反対側	0.005	0.00536	0.016																																																																																																																																																					
	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.005	0.00536	0.016																																																																																																																																																					
			反対側	0.005	0.00537	0.016																																																																																																																																																					
	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.005	0.00532	0.016																																																																																																																																																					
			反対側	0.005	0.00555	0.016																																																																																																																																																					
	No. 4	新施設西側 沿道	予測位置	0.005	0.00522	0.016																																																																																																																																																					
			反対側	0.005	0.00520	0.016																																																																																																																																																					
	No. 5	新施設東側 沿道	予測位置	0.005	0.00507	0.016																																																																																																																																																					
			反対側	0.005	0.00506	0.016																																																																																																																																																					
	No. 6	新潟新津線 沿道	予測位置	0.005	0.00526	0.016																																																																																																																																																					
			反対側	0.005	0.00532	0.016																																																																																																																																																					
東新潟病院前		予測位置	0.005	0.00526	0.016																																																																																																																																																						
		反対側	0.005	0.00536	0.016																																																																																																																																																						
浮遊粒子状 物質(mg/m ³)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.012	0.012018	0.033																																																																																																																																																					
			反対側	0.012	0.012019	0.033																																																																																																																																																					
	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.011	0.011018	0.031																																																																																																																																																					
			反対側	0.011	0.011018	0.031																																																																																																																																																					
	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.012	0.012014	0.033																																																																																																																																																					
			反対側	0.012	0.012022	0.033																																																																																																																																																					
	No. 4	新施設西側 沿道	予測位置	0.012	0.012009	0.033																																																																																																																																																					
			反対側	0.012	0.012008	0.033																																																																																																																																																					
	No. 5	新施設東側 沿道	予測位置	0.012	0.012004	0.033																																																																																																																																																					
			反対側	0.012	0.012004	0.033																																																																																																																																																					
	No. 6	新潟新津線 沿道	予測位置	0.012	0.012011	0.033																																																																																																																																																					
			反対側	0.012	0.012013	0.033																																																																																																																																																					
	東新潟病院前		予測位置	0.011	0.011012	0.031																																																																																																																																																					
			反対側	0.011	0.011016	0.031																																																																																																																																																					
		(次頁に続く)	(次頁に続く)	(次頁に続く)																																																																																																																																																							

表 10.2.1 環境影響評価結果の概要（大気質）（6/6）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																																																																		
大気質	土地又は工作物の存在及び供用 廃棄物運搬車両の運行	<p>(前頁から続く)</p> <p style="text-align: center;">季節別降下ばいじん量予測結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="4">予測結果 (t/km²/月)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">季節別降下ばいじん量 (t/km²/月)</td> <td rowspan="2">No. 1</td> <td rowspan="2">南 6-79 号線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.72</td> <td>0.67</td> <td>0.82</td> <td>0.46</td> <td rowspan="10">10t/km²/月 以下</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.61</td> <td>0.89</td> <td>0.78</td> <td>0.71</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.35</td> <td>0.33</td> <td>0.29</td> <td>0.20</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.26</td> <td>0.42</td> <td>0.45</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td rowspan="2">嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)</td> <td>予測位置</td> <td>0.05</td> <td>0.08</td> <td>0.10</td> <td>0.08</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.23</td> <td>0.26</td> <td>0.19</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 4</td> <td rowspan="2">新施設西側 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.10</td> <td>0.12</td> <td>0.11</td> <td>0.11</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.07</td> <td>0.07</td> <td>0.09</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 5</td> <td rowspan="2">新施設東側 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.01</td> <td>0.01</td> <td>0.01</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.01</td> <td>0.01</td> <td>0.01</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 6</td> <td rowspan="2">新潟新津線 沿道</td> <td>予測位置</td> <td>0.05</td> <td>0.05</td> <td>0.06</td> <td>0.03</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.07</td> <td>0.10</td> <td>0.08</td> <td>0.08</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">東新潟病院前</td> <td rowspan="2"></td> <td>予測位置</td> <td>0.14</td> <td>0.21</td> <td>0.28</td> <td>0.22</td> </tr> <tr> <td>反対側</td> <td>0.35</td> <td>0.38</td> <td>0.28</td> <td>0.19</td> </tr> </tbody> </table> <p>二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び季節別降下ばいじん量の予測結果は、いずれの地点も評価基準を満足していた。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		予測結果 (t/km ² /月)				評価基準	春季	夏季	秋季	冬季	季節別降下ばいじん量 (t/km ² /月)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.72	0.67	0.82	0.46	10t/km ² /月 以下	反対側	0.61	0.89	0.78	0.71	No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.35	0.33	0.29	0.20	反対側	0.26	0.42	0.45	0.36	No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.05	0.08	0.10	0.08	反対側	0.23	0.26	0.19	0.13	No. 4	新施設西側 沿道	予測位置	0.10	0.12	0.11	0.11	反対側	0.07	0.07	0.09	0.05	No. 5	新施設東側 沿道	予測位置	0.01	0.01	0.01	0.01	反対側	0.01	0.01	0.01	0.01	No. 6	新潟新津線 沿道	予測位置	0.05	0.05	0.06	0.03	反対側	0.07	0.10	0.08	0.08	東新潟病院前		予測位置	0.14	0.21	0.28	0.22	反対側	0.35	0.38	0.28	0.19	(前頁から続く)	(前頁から続く)
		予測項目 (単位)				予測地点		予測結果 (t/km ² /月)				評価基準																																																																																										
			春季	夏季	秋季			冬季																																																																																														
		季節別降下ばいじん量 (t/km ² /月)	No. 1	南 6-79 号線 沿道	予測位置	0.72	0.67	0.82	0.46	10t/km ² /月 以下																																																																																												
					反対側	0.61	0.89	0.78	0.71																																																																																													
		No. 2	嘉瀬蔵岡線 沿道 (西側)	予測位置	0.35	0.33	0.29	0.20																																																																																														
				反対側	0.26	0.42	0.45	0.36																																																																																														
		No. 3	嘉瀬蔵岡線 沿道 (東側)	予測位置	0.05	0.08	0.10	0.08																																																																																														
				反対側	0.23	0.26	0.19	0.13																																																																																														
		No. 4	新施設西側 沿道	予測位置	0.10	0.12	0.11	0.11																																																																																														
反対側	0.07			0.07	0.09	0.05																																																																																																
No. 5	新施設東側 沿道	予測位置	0.01	0.01	0.01	0.01																																																																																																
		反対側	0.01	0.01	0.01	0.01																																																																																																
No. 6	新潟新津線 沿道	予測位置	0.05	0.05	0.06	0.03																																																																																																
		反対側	0.07	0.10	0.08	0.08																																																																																																
東新潟病院前		予測位置	0.14	0.21	0.28	0.22																																																																																																
		反対側	0.35	0.38	0.28	0.19																																																																																																

表 10.2.2 環境影響評価結果の概要（騒音）（1/2）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																							
騒音	工事の実施	<p>建設機械の稼働に伴う騒音の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">建設機械の稼働に伴う騒音の調査・予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間 区分</th> <th rowspan="2">現況(バック グラウンド;BG)騒音</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>予測騒音レベル (BG+寄与)*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">時間率騒音レ ベル(L_{A5}) (dB)</td> <td>St. 1</td> <td>対象事業実施区域</td> <td>昼間</td> <td>50</td> <td>67</td> <td>67</td> <td>85dB 以下</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>YOU なかの保育園付近</td> <td>昼間</td> <td>64</td> <td>63</td> <td>66</td> <td>現況非悪化</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 予測騒音レベルは以下の合成式による。 $L_{A5} = 10 \log_{10}(10^{L_{A5,1}/10} + 10^{L_{A5,2}/10})$ ここで、L_{A5}：予測騒音レベル (dB)、L_{A5,1}：現況騒音レベル (dB)、L_{A5,2}：寄与分騒音レベル (dB)</p> <p>St. 1 における騒音の予測結果は 67dB であり、特定建設作業に係る評価基準値である 85dB を下回った。また、St. 2 では、現況の騒音レベル 64dB に対して予測結果は 66dB であり、上昇程度は小さく現況の著しい悪化は予測されず、現況非悪化の観点と整合するものと考えられる。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間 区分	現況(バック グラウンド;BG)騒音	予測結果(dB)		評価基準	寄与分	予測騒音レベル (BG+寄与)*	時間率騒音レ ベル(L _{A5}) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	昼間	50	67	67	85dB 以下	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	64	63	66	現況非悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音・低振動型の機械・工法を採用する。 ・対象事業実施区域周辺に仮囲い等を設置する。 ・建設機械の点検・整備を十分に行う。 ・原則として工事は日曜・祝日以外の 8:00～17:00 に実施する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 建設機械の点検・整備、工法や作業時間における配慮を行うことにより、事業者の実行可能な範囲で騒音への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 St. 1 の予測結果は、評価基準を下回り、St. 2 は現況非悪化の観点と整合することから、評価基準との整合性は図られているものと考えられる。</p> <p>【評価基準】 ・特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準</p>														
	予測項目 (単位)	予測地点						時間 区分	現況(バック グラウンド;BG)騒音		予測結果(dB)			評価基準																													
寄与分				予測騒音レベル (BG+寄与)*																																							
時間率騒音レ ベル(L _{A5}) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	昼間	50	67	67	85dB 以下																																				
	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	64	63	66	現況非悪化																																				
	資材等運搬車両の運行	<p>資材等運搬車両の運行に伴う騒音の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">資材等運搬車両の運行に伴う騒音の調査・予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間 区分</th> <th rowspan="2">現況(バック グラウンド;BG)騒音</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>予測騒音レベル</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">等価騒音レ ベル(L_{Aeq}) (dB)</td> <td>No. 1</td> <td>南 6-79 号線沿道</td> <td>昼間</td> <td>64</td> <td>65</td> <td>1</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 2</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(西側)</td> <td>昼間</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>1</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 3</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(東側)</td> <td>昼間</td> <td>67</td> <td>68</td> <td>1</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>東新潟病院前</td> <td>昼間</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>1</td> <td>60dB 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>資材等運搬車両の運行に伴う道路交通騒音の予測結果は、No. 1 は評価基準に適合する値であった。その他の地点は現況騒音が評価基準を超過しているが、その要因は当該道路の交通量の多さや周辺幹線道路の影響と考えられる。また、当該地点において、現況交通量に対する本事業による資材等運搬車両の台数はわずかであり、等価騒音レベルの増加量は全ての地点で 1dB であることから、現況の著しい悪化は予測されず、現況非悪化の観点とは整合するものと考えられる。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間 区分	現況(バック グラウンド;BG)騒音	予測結果(dB)		評価基準	予測騒音レベル	増加量	等価騒音レ ベル(L _{Aeq}) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	64	65	1	65dB 以下	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	73	74	1	60dB 以下	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	67	68	1	60dB 以下		東新潟病院前	昼間	73	74	1	60dB 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型車両を積極的に導入する。 ・車両の点検・整備を十分に行う。 ・車両の走行が集中しないように分散化等を図る。 ・原則として資材搬入は日曜・祝日以外の 8:00～17:00 に実施する。 ・道路交通法の遵守するとともに、アイドリングストップや空ぶかしの防止、作業現場周辺での徐行を徹底する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で騒音への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、評価基準を超える地点があったが、現況騒音の基準不適合となっており、本事業により現況の著しい悪化は予測されず、現況非悪化の観点と整合していることから、評価基準との整合性は図られているものと考えられる。</p> <p>【評価基準】 ・道路に面する地域における騒音に係る環境基準</p>
予測項目 (単位)	予測地点							時間 区分	現況(バック グラウンド;BG)騒音		予測結果(dB)			評価基準																													
			予測騒音レベル	増加量																																							
等価騒音レ ベル(L _{Aeq}) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	64	65	1	65dB 以下																																				
	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	73	74	1	60dB 以下																																				
	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	67	68	1	60dB 以下																																				
		東新潟病院前	昼間	73	74	1	60dB 以下																																				

表 10.2.2 環境影響評価結果の概要（騒音）（2/2）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																												
騒音	土地又は工作物の存在及び供用	<p>施設の稼働に伴う騒音の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">施設の稼働に伴う騒音予測結果</p> <table border="1" data-bbox="385 376 1386 612"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間区分</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド:BG)騒音</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>予測騒音レベル(BG+寄与)*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">時間率騒音レベル(L_{A5}) (dB)</td> <td rowspan="4">St. 1</td> <td rowspan="4">対象事業実施区域</td> <td>朝</td> <td>52</td> <td>38</td> <td>52</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>50</td> <td>38</td> <td>50</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>47</td> <td>38</td> <td>47</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>46</td> <td>38</td> <td>46</td> <td>50dB 以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">等価騒音レベル(L_{Aeq}) (dB)</td> <td rowspan="2">St. 2</td> <td rowspan="2">YOU なかの保育園付近</td> <td>昼間</td> <td>60</td> <td>32</td> <td>60</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>46</td> <td>32</td> <td>46</td> <td>50dB 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 予測騒音レベルは以下の合成式による。 $L_{A5} = 10 \log_{10}(10^{L_{A5,1}/10} + 10^{L_{A5,2}/10})$ 又は $L_{Aeq} = 10 \log_{10}(10^{L_{Aeq,1}/10} + 10^{L_{Aeq,2}/10})$ ここで、 L_{A5}, L_{Aeq} : 予測騒音レベル (dB) $L_{A5,1}, L_{Aeq,1}$: 現況騒音レベル (dB) $L_{A5,2}, L_{Aeq,2}$: 寄与分騒音レベル (dB)</p> <p>施設の稼働による騒音の予測結果は、いずれの地点、時間区分においても評価基準に適合する結果であった。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間区分	現況(バックグラウンド:BG)騒音	予測結果(dB)		評価基準	寄与分	予測騒音レベル(BG+寄与)*	時間率騒音レベル(L _{A5}) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	朝	52	38	52	60dB 以下	昼間	50	38	50	65dB 以下	夕	47	38	47	60dB 以下	夜間	46	38	46	50dB 以下	等価騒音レベル(L _{Aeq}) (dB)	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	60	32	60	60dB 以下	夜間	46	32	46	50dB 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低騒音型の設備・機器の採用に努める。また、吸音材等を導入するように努める。 設備・機器は原則屋内設置とする。 設備・機器の点検を十分に行う。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で騒音への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、評価基準に適合する結果であり、評価基準との整合性は図られているものと考える。</p> <p>【評価基準】 ・特定工場等に係る騒音の規制基準及び騒音に係る環境基準 ・道路に面する地域以外の地域（一般地域）における騒音に係る環境基準</p>														
	予測項目 (単位)	予測地点						時間区分	現況(バックグラウンド:BG)騒音		予測結果(dB)					評価基準																																																
寄与分				予測騒音レベル(BG+寄与)*																																																												
時間率騒音レベル(L _{A5}) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	朝	52	38	52	60dB 以下																																																									
			昼間	50	38	50	65dB 以下																																																									
			夕	47	38	47	60dB 以下																																																									
			夜間	46	38	46	50dB 以下																																																									
等価騒音レベル(L _{Aeq}) (dB)	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	60	32	60	60dB 以下																																																									
			夜間	46	32	46	50dB 以下																																																									
廃棄物運搬車両の運行	<p>廃棄物運搬車両の運行に伴う騒音の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">廃棄物運搬車両の運行に伴う騒音予測結果</p> <table border="1" data-bbox="385 932 1386 1198"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間区分</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド:BG)騒音</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>予測騒音レベル</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">等価騒音レベル(L_{Aeq}) (dB)</td> <td>No. 1</td> <td>南 6-79 号線沿道</td> <td>昼間</td> <td>64</td> <td>65</td> <td>1</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 2</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(西側)</td> <td>昼間</td> <td>73</td> <td>73</td> <td>0</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 3</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(東側)</td> <td>昼間</td> <td>67</td> <td>67</td> <td>0</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 4</td> <td>新施設西側沿道</td> <td>昼間</td> <td>68</td> <td>68</td> <td>0</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 5</td> <td>新施設東側沿道</td> <td>昼間</td> <td>62</td> <td>62</td> <td>0</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 6</td> <td>新潟新津線沿道</td> <td>昼間</td> <td>69</td> <td>69</td> <td>0</td> <td>70dB 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>東新潟病院前</td> <td>昼間</td> <td>73</td> <td>73</td> <td>0</td> <td>60dB 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>廃棄物運搬車両の運行に伴う道路交通騒音の予測結果は、No. 1、No. 5 及び No. 6 は評価基準に適合する値であった。その他の地点は現況騒音が評価基準を超過しているが、その要因は当該道路の交通量の多さや周辺幹線道路の影響と考えられる。また、当該地点において、現況交通量に対する本事業による廃棄物運搬車両の台数はわずかであり、等価騒音レベルの増加量は No. 1 地点で 1dB、その他の地点で 0dB であることから、現況の著しい悪化は予測されず、現況非悪化の観点と整合するものと考えられる。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間区分	現況(バックグラウンド:BG)騒音	予測結果(dB)		評価基準	予測騒音レベル	増加量	等価騒音レベル(L _{Aeq}) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	64	65	1	65dB 以下	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	73	73	0	60dB 以下	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	67	67	0	60dB 以下	No. 4	新施設西側沿道	昼間	68	68	0	60dB 以下	No. 5	新施設東側沿道	昼間	62	62	0	65dB 以下	No. 6	新潟新津線沿道	昼間	69	69	0	70dB 以下			東新潟病院前	昼間	73	73	0	60dB 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低騒音型車両の積極的な導入を求める。 車両の十分な点検・整備を求める。 道路交通法の遵守及びアイドリングストップや空ぶかしの防止を徹底する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で騒音への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、評価基準を超える地点があるものの、現況非悪化の観点と整合しており、評価基準との整合性は図られているものと評価する。</p> <p>【評価基準】 ・道路に面する地域における騒音に係る環境基準</p>
予測項目 (単位)	予測地点						時間区分	現況(バックグラウンド:BG)騒音		予測結果(dB)			評価基準																																																			
			予測騒音レベル	増加量																																																												
等価騒音レベル(L _{Aeq}) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	64	65	1	65dB 以下																																																									
	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	73	73	0	60dB 以下																																																									
	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	67	67	0	60dB 以下																																																									
	No. 4	新施設西側沿道	昼間	68	68	0	60dB 以下																																																									
	No. 5	新施設東側沿道	昼間	62	62	0	65dB 以下																																																									
	No. 6	新潟新津線沿道	昼間	69	69	0	70dB 以下																																																									
			東新潟病院前	昼間	73	73	0	60dB 以下																																																								

表 10.2.3 環境影響評価結果の概要（低周波音）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																														
低周波音	土地又は工作物の存在及び供用 施設の稼働	<p>施設の稼働に伴う低周波音の調査・予測結果を下表及び下図に示す。</p> <p style="text-align: center;">施設の稼働に伴う低周波音の調査・予測結果</p> <table border="1" data-bbox="436 343 1339 534"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目(単位)</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG)</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>予測音圧レベル(BG+寄与)*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">G特性音圧レベル(L_{G5})(dB)</td> <td>St.1 対象事業実施区域</td> <td>74</td> <td></td> <td>83</td> <td>100dB以下</td> </tr> <tr> <td>St.2 YOUなかの保育園付近</td> <td>78</td> <td>67</td> <td>78</td> <td>100dB以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">平坦特性音圧レベル(L₅₀)(dB)</td> <td>St.1 対象事業実施区域</td> <td>74</td> <td></td> <td>78</td> <td>90dB以下</td> </tr> <tr> <td>St.2 YOUなかの保育園付近</td> <td>72</td> <td>62</td> <td>72</td> <td>90dB以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ St.1の予測結果は類似施設の調査結果及び事業計画に基づく定性的な予測結果である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="353 587 913 826"> <p style="text-align: center;">建具のがたつき始める音圧レベルとの比較</p> </div> <div data-bbox="922 587 1422 1114"> <p style="text-align: center;">不快さを感じる感覚（中村らの実験結果）との比較</p> </div> </div> <p>類似施設の敷地境界における低周波音の測定結果（最大値）は平坦特性音圧レベルで78dB、G特性音圧レベルで83dBであり、それぞれ評価基準を下回っていた。計画施設の敷地境界における低周波音は、類似施設の測定結果と同程度であると予測され、各予測地点における低周波音は事業の実施後も評価基準を上回ることはないと考えられる。また、全ての周波数で建具のがたつき始める音圧レベル、ならびに不快さ（圧迫感・振動感）を感じる領域の下端を下回る値であった。</p>	予測項目(単位)	予測地点	現況(バックグラウンド;BG)	予測結果(dB)		評価基準	寄与分	予測音圧レベル(BG+寄与)*	G特性音圧レベル(L _{G5})(dB)	St.1 対象事業実施区域	74		83	100dB以下	St.2 YOUなかの保育園付近	78	67	78	100dB以下	平坦特性音圧レベル(L ₅₀)(dB)	St.1 対象事業実施区域	74		78	90dB以下	St.2 YOUなかの保育園付近	72	62	72	90dB以下	<ul style="list-style-type: none"> ・設備・機器は原則屋内設置とする。 ・設備・機器の点検・整備を十分に行う。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で低周波音への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、評価基準及び参考値等を下回っており、評価基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>なお、St.2においてSt.1の音圧レベルを上回る周波数帯がみられるが、St.1では類似施設の調査結果を予測結果に引用し、St.2ではP7-195に示すとおり現況の測定結果の最大値が予測結果となっていることから、それぞれの地点周辺の発生源の特性が影響したものと考えられる。</p> <p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISO-7196 (G特性音圧レベル参考値) ・低周波音空気振動調査報告書(昭和59年 環境省大気保全局) (平坦特性音圧レベル参考値) ・低周波音防止対策事例集(平成14年 環境省水・大気環境局大気生活環境室) (建具のがたつき閾値) ・低周波音に対する感覚と評価に関する基礎研究(昭和55年度文部省科学研究費「環境科学」特別研究) (圧迫感・振動感を感じる音圧レベル参考値)
予測項目(単位)	予測地点	現況(バックグラウンド;BG)				予測結果(dB)			評価基準																									
			寄与分	予測音圧レベル(BG+寄与)*																														
G特性音圧レベル(L _{G5})(dB)	St.1 対象事業実施区域	74		83	100dB以下																													
	St.2 YOUなかの保育園付近	78	67	78	100dB以下																													
平坦特性音圧レベル(L ₅₀)(dB)	St.1 対象事業実施区域	74		78	90dB以下																													
	St.2 YOUなかの保育園付近	72	62	72	90dB以下																													

表 10.2.4 環境影響評価結果の概要（振動）（1/2）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																							
振動	工事の実施	<p>建設機械の稼働に伴う振動の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">建設機械の稼働に伴う振動の調査・予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間 区分</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG)騒音</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>予測振動レベル (BG+寄与)*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">時間率振動レベル(L₁₀) (dB)</td> <td>St. 1</td> <td>対象事業実施区域</td> <td>昼間</td> <td>29</td> <td>66</td> <td>66</td> <td>75dB 以下</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>YOU なかの保育園付近</td> <td>昼間</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>43</td> <td>現況非悪化</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 予測振動レベルは以下の合成式による。 $L_{10} = 10\log_{10}(10^{L_{10,1}/10} + 10^{L_{10,2}/10})$ ここで、L₁₀：予測振動レベル (dB)、L_{10,1}：現況振動レベル (dB)、L_{10,2}：寄与分振動レベル (dB)</p> <p>St. 1 における振動の予測結果は 66dB であり、評価基準を下回った。また、St. 2 では現況の振動レベルから 1 割程度値が上昇することが予測されたが、当該数値 (43dB) は人の感覚閾値とされる 55dB を下回っており、現況非悪化の観点と整合するものと考えられる。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)騒音	予測結果(dB)		評価基準	寄与分	予測振動レベル (BG+寄与)*	時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	昼間	29	66	66	75dB 以下	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	38	41	43	現況非悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・低振動型の機械・工法を採用する。 ・建設機械の点検・整備を十分に行う。 ・原則として工事は日曜・祝日以外の 8:00～17:00 に実施する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で振動への環境影響の低減を図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、St. 1 では評価基準を下回っており、また、St. 2 では振動レベルが現況から 1 割程度値が上昇すると予測されたが、当該数値は人の感覚閾値 (55dB) を下回っており、現況非悪化の観点と整合することから、評価の基準との整合性は図られているものと評価する。</p> <p>【評価基準】 ・特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準</p>														
	予測項目 (単位)	予測地点						時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)騒音		予測結果(dB)			評価基準																													
寄与分				予測振動レベル (BG+寄与)*																																							
時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	昼間	29	66	66	75dB 以下																																				
	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	38	41	43	現況非悪化																																				
	資材等運搬車両の運行	<p>資材等運搬車両の運行に伴う振動の予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">資材等運搬車両の運行に伴う振動の調査・予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間 区分</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG)振動</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>予測振動レベル</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">時間率振動レベル(L₁₀) (dB)</td> <td>No. 1</td> <td>南 6-79 号線沿道</td> <td>昼間</td> <td>48</td> <td>50</td> <td>2</td> <td>70dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 2</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(西側)</td> <td>昼間</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 3</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(東側)</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>42</td> <td>1</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>東新潟病院前</td> <td>昼間</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>65dB 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>道路交通振動の予測結果は 42～50dB であり、すべての地点で評価基準を下回るとともに、人の感覚閾値とされる 55dB 以下の値であった。また、現況の振動レベルに対する増加量は 0～2dB であった。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)振動	予測結果(dB)		評価基準	予測振動レベル	増加量	時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	48	50	2	70dB 以下	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	44	44	0	65dB 以下	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	41	42	1	65dB 以下		東新潟病院前	昼間	44	44	0	65dB 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・低振動型車両を積極的に導入する。 ・車両の点検・整備を十分に行う。 ・車両の走行が集中しないように分散化等を図る。 ・原則として資材搬入は日曜・祝日以外の 8:00～17:00 に実施する。 ・道路交通法の遵守するとともに、アイドリングストップや空ぶかしの防止、作業現場周辺での徐行を徹底する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で振動への環境影響の低減を図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、評価基準を下回っており、また、現況非悪化の観点と整合することから、評価の基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>【評価基準】 ・振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度</p>
予測項目 (単位)	予測地点							時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)振動		予測結果(dB)			評価基準																													
			予測振動レベル	増加量																																							
時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	48	50	2	70dB 以下																																				
	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	44	44	0	65dB 以下																																				
	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	41	42	1	65dB 以下																																				
		東新潟病院前	昼間	44	44	0	65dB 以下																																				

表 10.2.4 環境影響評価結果の概要（振動）（2/2）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																												
振動	土地又は工作物の存在及び供用	<p>施設の稼働に伴う振動の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">施設の稼働に伴う振動の調査・予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間 区分</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG)騒音</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>予測振動レベル (BG+寄与)*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">時間率振動レベル(L₁₀) (dB)</td> <td rowspan="2">St. 1</td> <td rowspan="2">対象事業実施区域</td> <td>昼間</td> <td>29</td> <td>52</td> <td>52</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>27</td> <td>52</td> <td>52</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">St. 2</td> <td rowspan="2">YOU なかの保育園付近</td> <td>昼間</td> <td>38</td> <td>27</td> <td>38</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>30</td> <td>60dB 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 予測振動レベルは以下の合成式による。 $L_{10} = 10 \log_{10}(10^{L_{10,1}/10} + 10^{L_{10,2}/10})$ ここで、L₁₀：予測振動レベル (dB)、L_{10,1}：現況振動レベル (dB)、L_{10,2}：寄与分振動レベル (dB)</p> <p>施設の稼働による振動の予測結果は、St. 1 で昼間、夜間ともに 52dB、St. 2 で昼間 38dB、夜間 30dB であり、いずれの地点、時間区分においても評価基準を下回った。なお、St. 2 の夜間は現況の振動レベルから 1 割程度値が上昇することが予測されたが、当該数値は人の感覚閾値とされる 55dB を下回っており、現況非悪化の観点と整合するものと予測する。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)騒音	予測結果(dB)		評価基準	寄与分	予測振動レベル (BG+寄与)*	時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	昼間	29	52	52	65dB 以下	夜間	27	52	52	60dB 以下	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	38	27	38	65dB 以下	夜間	27	27	30	60dB 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・低振動型の設備機器の採用に努める。また、緩衝支持装置(防振ゴムなど)等を導入するように努める。 ・設備・機器の点検を十分に行う。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、評価基準を下回っており、また、予測値は現況非悪化の観点と整合することから、評価の基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>【評価基準】 ・特定工場等に係る振動の規制基準</p>																									
	予測項目 (単位)	予測地点						時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)騒音		予測結果(dB)					評価基準																																																
寄与分				予測振動レベル (BG+寄与)*																																																												
時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	St. 1	対象事業実施区域	昼間	29	52	52	65dB 以下																																																									
			夜間	27	52	52	60dB 以下																																																									
	St. 2	YOU なかの保育園付近	昼間	38	27	38	65dB 以下																																																									
			夜間	27	27	30	60dB 以下																																																									
廃棄物運搬車両の運行	<p>廃棄物運搬車両の運行に伴う振動の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">廃棄物運搬車両の運行に伴う振動の調査・予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間 区分</th> <th rowspan="2">現況(バックグラウンド;BG)振動</th> <th colspan="2">予測結果(dB)</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>予測振動レベル</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">時間率振動レベル(L₁₀) (dB)</td> <td>No. 1</td> <td>南 6-79 号線沿道</td> <td>昼間</td> <td>48</td> <td>51</td> <td>3</td> <td>70dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 2</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(西側)</td> <td>昼間</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 3</td> <td>嘉瀬蔵岡線沿道(東側)</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>0</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 4</td> <td>新施設西側沿道</td> <td>昼間</td> <td>50</td> <td>49</td> <td>-1</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 5</td> <td>新施設東側沿道</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>0</td> <td>70dB 以下</td> </tr> <tr> <td>No. 6</td> <td>新潟新津線沿道</td> <td>昼間</td> <td>42</td> <td>42</td> <td>0</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>東新潟病院前</td> <td>昼間</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>65dB 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>道路交通振動の予測結果は 41～51dB であり、すべての地点で評価基準を下回るとともに、人の感覚閾値とされる 55dB 以下の値であった。また、現況の振動レベルに対する増加量は-1～3dB であった。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)振動	予測結果(dB)		評価基準	予測振動レベル	増加量	時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	48	51	3	70dB 以下	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	44	44	0	65dB 以下	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	41	41	0	65dB 以下	No. 4	新施設西側沿道	昼間	50	49	-1	65dB 以下	No. 5	新施設東側沿道	昼間	41	41	0	70dB 以下	No. 6	新潟新津線沿道	昼間	42	42	0	65dB 以下			東新潟病院前	昼間	44	44	0	65dB 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型車両の積極的な導入を求める。 ・車両の十分な点検・整備を求める。 ・道路交通法の遵守及びアイドリングストップや空ぶかしの防止を求める。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、評価基準を下回っており、また、予測値は現況非悪化の観点と整合することから、評価の基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>【評価基準】 ・振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度</p>
予測項目 (単位)	予測地点						時間 区分	現況(バックグラウンド;BG)振動		予測結果(dB)			評価基準																																																			
			予測振動レベル	増加量																																																												
時間率振動レベル(L ₁₀) (dB)	No. 1	南 6-79 号線沿道	昼間	48	51	3	70dB 以下																																																									
	No. 2	嘉瀬蔵岡線沿道(西側)	昼間	44	44	0	65dB 以下																																																									
	No. 3	嘉瀬蔵岡線沿道(東側)	昼間	41	41	0	65dB 以下																																																									
	No. 4	新施設西側沿道	昼間	50	49	-1	65dB 以下																																																									
	No. 5	新施設東側沿道	昼間	41	41	0	70dB 以下																																																									
	No. 6	新潟新津線沿道	昼間	42	42	0	65dB 以下																																																									
			東新潟病院前	昼間	44	44	0	65dB 以下																																																								

表 10.2.5 環境影響評価結果の概要（悪臭）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																																		
悪臭	土地又は工作物の存在及び供用 施設の稼働（煙突からの排出ガス）	<p>施設の稼働（煙突からの排出ガス）に伴う悪臭の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">臭気指数調査結果</p> <table border="1" data-bbox="459 347 1317 619"> <thead> <tr> <th>調査項目 (単位)</th> <th colspan="2">調査地点</th> <th>調査結果</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">臭気指数 (-)</td> <td rowspan="2">St. 1</td> <td>対象事業実施区域敷地境界（風上側）</td> <td>10 未満</td> <td>13 以下</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域敷地境界（風下側）</td> <td>10 未満</td> <td>13 以下</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>YOU なかの保育園付近</td> <td>10 未満</td> <td>12 以下</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>五月町第二開発公園</td> <td>10 未満</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>石山居村公園</td> <td>10 未満</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>山二ツソフトボール場</td> <td>10 未満</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>新潟向陽高校</td> <td>10 未満</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">類似施設（新田清掃センター）（煙道）</td> <td>29</td> <td>51（許容臭気指数）</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">施設の稼働に伴う悪臭予測結果</p> <table border="1" data-bbox="488 678 1288 774"> <thead> <tr> <th>予測項目 (単位)</th> <th>予測地点</th> <th>現況 (St. 2)</th> <th>予測結果</th> <th>施設からの 距離(m)</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臭気指数(-)</td> <td>最大着地濃度地点</td> <td>10 未満</td> <td>10 未満</td> <td>270</td> <td>12 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>予測結果は、最大着地濃度地点（施設から半径 270m。当該範囲の近傍には St. 2 が位置する）で臭気指数 10 未満となったことから、ほかの予測地点（St. 1～St. 6）についても同様と予測される。</p>	調査項目 (単位)	調査地点		調査結果	評価基準	臭気指数 (-)	St. 1	対象事業実施区域敷地境界（風上側）	10 未満	13 以下	対象事業実施区域敷地境界（風下側）	10 未満	13 以下	St. 2	YOU なかの保育園付近	10 未満	12 以下	St. 3	五月町第二開発公園	10 未満	10 以下	St. 4	石山居村公園	10 未満	10 以下	St. 5	山二ツソフトボール場	10 未満	10 以下	St. 6	新潟向陽高校	10 未満	10 以下		類似施設（新田清掃センター）（煙道）		29	51（許容臭気指数）	予測項目 (単位)	予測地点	現況 (St. 2)	予測結果	施設からの 距離(m)	評価基準	臭気指数(-)	最大着地濃度地点	10 未満	10 未満	270	12 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・高温焼却することで悪臭物質を酸化分解させる。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で悪臭への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、すべての地点で評価基準を下回っており、評価の基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>【評価基準】 ・悪臭防止法及び新潟市生活環境の保全等に関する条例</p>
調査項目 (単位)	調査地点		調査結果	評価基準																																																		
臭気指数 (-)	St. 1	対象事業実施区域敷地境界（風上側）	10 未満	13 以下																																																		
		対象事業実施区域敷地境界（風下側）	10 未満	13 以下																																																		
	St. 2	YOU なかの保育園付近	10 未満	12 以下																																																		
	St. 3	五月町第二開発公園	10 未満	10 以下																																																		
	St. 4	石山居村公園	10 未満	10 以下																																																		
	St. 5	山二ツソフトボール場	10 未満	10 以下																																																		
	St. 6	新潟向陽高校	10 未満	10 以下																																																		
	類似施設（新田清掃センター）（煙道）		29	51（許容臭気指数）																																																		
予測項目 (単位)	予測地点	現況 (St. 2)	予測結果	施設からの 距離(m)	評価基準																																																	
臭気指数(-)	最大着地濃度地点	10 未満	10 未満	270	12 以下																																																	
	施設からの漏洩	<p>供用時の施設からの漏洩に伴う悪臭の調査・予測結果は以下のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">現施設稼働時の対象事業実施区域内における臭気指数調査結果</p> <table border="1" data-bbox="459 970 1317 1082"> <thead> <tr> <th>調査項目 (単位)</th> <th colspan="2">調査地点</th> <th>調査結果</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">臭気指数 (-)</td> <td rowspan="2">St. 1</td> <td>対象事業実施区域敷地境界（風上側）</td> <td>10 未満</td> <td>13 以下</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域敷地境界（風下側）</td> <td>10 未満</td> <td>13 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>供用時の施設からの漏洩に伴う悪臭の影響については、ごみピット内を負圧に維持する、プラットホームの廃棄物運搬車両出入口にエアカーテンを設置する等、施設内部で発生する臭気を施設外へ拡散させない構造とする計画である。また、現行施設稼働時の対象事業実施区域の風上側、風下側の臭気指数の現地調査結果は、いずれも基準値を下回る結果であった。同様に、特定悪臭物質濃度もすべての項目が基準値を下回る結果であった。計画施設の構造及び環境保全措置は、現行施設と同等又はそれ以上となる計画であることから、施設の供用後においても規制基準値を下回ると考えられる。</p> <p>これらのことから、施設からの漏洩による悪臭の影響は小さいと予測される。</p>	調査項目 (単位)	調査地点		調査結果	評価基準	臭気指数 (-)	St. 1	対象事業実施区域敷地境界（風上側）	10 未満	13 以下	対象事業実施区域敷地境界（風下側）	10 未満	13 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみピット内を負圧に維持する。 ・プラットホームの廃棄物運搬車両出入口にエアカーテンを設置する。 ・休炉時や負圧を保てない場合には、ごみピット内の悪臭を脱臭装置に吸引誘導する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で悪臭への環境影響の低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 予測結果は、施設の供用後においても評価基準を下回っており、評価の基準との整合性は図られているものとする。</p> <p>【評価基準】 ・悪臭防止法及び新潟市生活環境の保全等に関する条例</p>																																					
調査項目 (単位)	調査地点		調査結果	評価基準																																																		
臭気指数 (-)	St. 1	対象事業実施区域敷地境界（風上側）	10 未満	13 以下																																																		
		対象事業実施区域敷地境界（風下側）	10 未満	13 以下																																																		

表 10.2.6 環境影響評価結果の概要（水質）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																																			
水質（水の濁り）	工事の実施 造成工事及び施設の設置等	<p>造成工事及び施設の設置等に伴う水質（水の濁り）（工事により発生する濁水の放流水 SS 濃度を 150mg/L まで低減する濁水処理を行う場合）の調査・予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">造成工事及び施設の設置等に伴う水質（水の濁り）の調査・予測結果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目 (単位)</th> <th colspan="2" rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時期 区分</th> <th rowspan="2">降雨時現況 水質</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th rowspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <th>日平均降水量 発生時</th> <th>日最大降水量 発生時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">SS (mg/L)</td> <td rowspan="2">W1</td> <td rowspan="2">山崎排水路</td> <td>豊水期</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>37</td> <td>現況非悪化</td> </tr> <tr> <td>渇水期</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>33</td> <td>現況非悪化</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">W2</td> <td rowspan="2">栗ノ木川</td> <td>豊水期</td> <td>87</td> <td>87</td> <td>87</td> <td>現況非悪化</td> </tr> <tr> <td>渇水期</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>36</td> <td>現況非悪化</td> </tr> </tbody> </table> <p>予測結果は、日最大降水量発生時の山崎排水路でも現況の SS 最大値よりも低い値となると予測され、影響は軽微であると判断される。</p>	予測項目 (単位)	予測地点		時期 区分	降雨時現況 水質	予測結果		評価基準	日平均降水量 発生時	日最大降水量 発生時	SS (mg/L)	W1	山崎排水路	豊水期	35	35	37	現況非悪化	渇水期	28	28	33	現況非悪化	W2	栗ノ木川	豊水期	87	87	87	現況非悪化	渇水期	35	35	36	現況非悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・沈砂池や水処理機器等の仮設備を設け、SS を 150mg/L 以下にして放流する。 ・放流水質（SS 濃度）を監視し、異常値が確認された場合は、適切な措置を講ずる。 ・強い降雨が予想されるときは、裸地をシート等により被覆する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で工事による水質（水の濁り）への環境影響の回避又は低減が図られると考える。</p> <p>(2) 環境の保全に関する施策との整合性 工事により発生する濁水の放流水 SS 濃度を 150mg/L まで低減する濁水処理を行うことにより、降雨時における水の濁りの顕著な上昇は生じないと予測され、現況非悪化の観点と整合することから、評価の基準との整合性が図られていると考える。</p> <p>【評価基準】 ・現況非悪化</p>
予測項目 (単位)	予測地点							時期 区分	降雨時現況 水質		予測結果					評価基準																							
			日平均降水量 発生時	日最大降水量 発生時																																			
SS (mg/L)	W1	山崎排水路	豊水期	35	35	37	現況非悪化																																
			渇水期	28	28	33	現況非悪化																																
	W2	栗ノ木川	豊水期	87	87	87	現況非悪化																																
			渇水期	35	35	36	現況非悪化																																
水質（有害物質（砒素））	工事の実施 掘削工事等	<p>対象事業実施区域周辺の地下水質調査結果は表 3.2.26 に示したとおりであり、3 地点で地下水を調査した結果、隣接する亀田第 2 埋立処分地周縁井戸（南西）、山崎排水路北側の民地井戸において環境基準を超える砒素が確認されている。</p> <p>対象事業実施区域における地下水位調査結果は表 7.7.4 に示したとおりであり、地表面（GL）から-1.67m~-3.11m となっている。</p> <p>対象事業における掘削深度は、ごみピットが設置される範囲が最深で約 13m となり、地下水位より深くなることから、掘削工事においては、湧出する地下水の排出が必要となる。</p> <p>地下水については、周辺地下水の調査結果や対象事業実施区域内の土壌調査結果から、砒素が含まれるおそれがあるため、砒素が含まれることを前提に、工事において砒素の性状を踏まえた適切な処理方法を採用したうえで、適宜排水水質のモニタリングを実施する等の環境保全措置を講ずることにより、周辺環境への影響は回避・低減できると予測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遮水性の高い山留壁を構築する等による地下水の揚水量低減を図る工法を採用する。揚水した地下水の排水を行う場合には、薬剤処理により水質汚濁防止法における一律排水基準以下とし、また、適宜排水水質のモニタリングを実施する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で地下水に含まれる砒素による周辺環境への影響の回避・低減が図られると考える</p>																																			

表 10.2.7 環境影響評価結果の概要（地盤）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果
地盤	工事の実施 造成工事及び施設の設定等	<p>造成工事及び施設の設定等による地盤への影響の調査・予測結果は、以下のとおりである。</p> <p>対象事業実施区域の地下水位は、地表面（GL）から-1.67～-3.11m、標高で-0.664～-2.153mの範囲であり、掘削工事等による土地の改変深度との重複が想定され、工事により地下水位に与える影響を与える可能性がある。</p> <p>しかし本事業は、プラットホームを2階に配置することでごみピット建設時の掘削深度を浅くする計画となっており、また、遮水性の高い山留壁を構築するなどの地下水位を極力低下させない工法を採用することにより、地下水位の著しい低下が抑制され、地盤沈下による周辺環境への影響は低減できると予測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遮水性の高い山留壁を構築するなど地下水位を極力低下させない工法を採用し、適切に対応する。 プラットホームを2階に配置することで、ごみピット建設時の掘削深度を浅くする。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減</p> <p>左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で地盤沈下（地下水位の変動）への影響の低減が図られると考える。</p>

表 10.2.8 環境影響評価結果の概要（土壌）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果
土壌	工事の実施 造成工事及び施設の設定等	<p>造成工事及び施設の設定等による土壌への影響の調査・予測結果は、以下のとおりである。</p> <p>対象事業実施区域において調査した208区画のうち、北側1区画のGL-5.0～7.0mの深度において、砒素の溶出量基準を超える土壌が確認され、それ以外の区画は全て基準に適合していた。</p> <p>新施設の設置は、敷地南側が主であり、汚染が確認された1区画については構内動線や緑地帯として利用が見込まれ、汚染深度までの掘削は行わない計画である。</p> <p>また、新たに土壌汚染が判明した場合や汚染区画の土壌について掘削等を行う場合は、「土壌汚染対策法（平成14年法律第53号）」及び「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）」に基づいた手続きや適切な工法及び処分方法を選定する。</p> <p>これらのことから、工事に伴う土壌への影響は軽微であると予測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 汚染土壌等が存在する土地を改変しない、又は改変を最小限とする工事計画を策定する。 汚染区画の造成・掘削を行う場合は、「土壌汚染対策法」（平成14年法律第53号）、埋設廃棄物については「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和45年法律第137号）に基づき、適切に対応する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減</p> <p>左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で工事における汚染土壌等による影響の回避・低減又は最小化が図られると考える。</p>

表 10.2.9 環境影響評価結果の概要（景観）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果																								
景観	土地又は工作物の存在及び供用 地形改変後の土地及び施設の存在	<p>新施設完成後の主要な眺望点からの眺望景観の変化の状況を下表に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新潟市景観計画における景観形成基準に基づき、周囲に与える突出感、違和感の軽減に努める。 また、周囲の景観と調和する意匠、色彩を採用する。 新潟市景観計画における景観形成基準に基づき、敷地内の外周部に植栽を施す。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を講ずることにより、事業者の実施可能な範囲で施設の存在による景観への環境影響の低減が図られると考える。</p>																								
		<p>新施設完成後の眺望景観の変化の概要</p>																										
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">地点番号</th> <th style="width: 10%;">眺望点</th> <th style="width: 30%;">眺望特性</th> <th style="width: 50%;">眺望景観の変化の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="336 391 414 582">K1</td> <td data-bbox="414 391 481 582">亀田排水路公園</td> <td data-bbox="481 391 806 582">対象事業実施区域の最も近傍に位置（南に約0.7km）する主要な眺望点。対象事業実施区域に向かって手前に水田が広がり、正面に現行施設を望む。なお、背後は住宅地で眺望は望めない。</td> <td data-bbox="806 391 1478 582">新施設の南部が中景域に視認され、景観の主体となりうる状況に大きな変化はない。新施設では工場棟の矩形の短辺側を視認することとなり、現行施設よりも幅が狭く、一方で高さが増して見えるものの、仰角の変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用すること、外周部等への植栽により周辺との調和を図ることにより、景観への影響は低減されると予測される。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 582 414 742">K2</td> <td data-bbox="414 582 481 742">山二ツ諏訪神社</td> <td data-bbox="481 582 806 742">対象事業実施区域の北に位置（約1.3km）する主要な眺望点。山二ツ地区の住宅地内の高台（微高地）に位置し、住居の屋根や立ち木越しに対象事業実施区域を望む。なお、背後は境内の社叢で眺望は望めない。</td> <td data-bbox="806 582 1478 742">新施設の北部が高速道を挟んで中景域に視認されるが、樹木等に遮られ、現行施設よりもさらに視認しにくくなっており、景観の主体とはなりにくい状況である。樹木等が伐採等改変を受けると視認され易くなると予想されるものの、住居屋根や高速道に遮られ景観の主体とはなりにくい状況に大きな変化はないと予測される。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 742 414 917">K3</td> <td data-bbox="414 742 481 917">すごぼりの桜並木</td> <td data-bbox="481 742 806 917">対象事業実施区域の東に位置（約1.5km）する主要な眺望点。水路に沿って桜並木が整備され、並木越しに水田を挟んで市街地建築物群の先に対象事業実施区域を望む。なお、背後は広く水田が広がる。</td> <td data-bbox="806 742 1478 917">新施設の東部が中景域[※]に視認され、景観の主体となりうる状況に大きな変化はない。新施設では工場棟の矩形の長辺側を視認することとなり、現行施設よりも幅が広く、かつ高さもわずかに増して見えるものの、垂直視角、水平見込角ともに変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用することにより、景観への影響は低減されると予測される。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 917 414 1093">K4</td> <td data-bbox="414 917 481 1093">南6-79号線</td> <td data-bbox="481 917 806 1093">対象事業実施区域の北に位置（約0.4km）する眺望点。対象事業実施区域及びその周辺施設への主要なアクセス道路であり、対象事業実施区域を正面に望む。なお、背後は高速道に遮られ眺望は望めない。</td> <td data-bbox="806 917 1478 1093">新施設の北部が近景域[※]に視認され、現施設に比べ正面に視認されるため、景観の主体として施設の要素やディテールが目につきやすい状況である。一方で現施設が視認された右手方向には広がりが増す。施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用すること、外周部等への植栽により周辺との調和を図ることにより、景観への影響は低減されると予測される。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1093 414 1252">K5</td> <td data-bbox="414 1093 481 1252">亀田大月地区</td> <td data-bbox="481 1093 806 1252">対象事業実施区域の東に位置（約0.3km）する眺望点。対象事業実施区域に最も近い保全施設等が存在する住宅地であり、植込み・樹木越しに対象事業実施区域を望む。なお、背後は住居や事業所に遮られ眺望は望めない。</td> <td data-bbox="806 1093 1478 1252">新施設の東部が近景域[※]に視認され、景観の主体として施設の要素やディテールが目につきやすい状況に大きな変化はない。また、現行施設よりも手前に建造されるため、仰角がやや増すものの、住居や樹木に遮られ、視認される範囲は限られることから、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用することにより、景観への影響は低減されると予測される。</td> </tr> </tbody> </table>			地点番号	眺望点	眺望特性	眺望景観の変化の状況	K1	亀田排水路公園	対象事業実施区域の最も近傍に位置（南に約0.7km）する主要な眺望点。対象事業実施区域に向かって手前に水田が広がり、正面に現行施設を望む。なお、背後は住宅地で眺望は望めない。	新施設の南部が中景域に視認され、景観の主体となりうる状況に大きな変化はない。新施設では工場棟の矩形の短辺側を視認することとなり、現行施設よりも幅が狭く、一方で高さが増して見えるものの、仰角の変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用すること、外周部等への植栽により周辺との調和を図ることにより、景観への影響は低減されると予測される。	K2	山二ツ諏訪神社	対象事業実施区域の北に位置（約1.3km）する主要な眺望点。山二ツ地区の住宅地内の高台（微高地）に位置し、住居の屋根や立ち木越しに対象事業実施区域を望む。なお、背後は境内の社叢で眺望は望めない。	新施設の北部が高速道を挟んで中景域に視認されるが、樹木等に遮られ、現行施設よりもさらに視認しにくくなっており、景観の主体とはなりにくい状況である。樹木等が伐採等改変を受けると視認され易くなると予想されるものの、住居屋根や高速道に遮られ景観の主体とはなりにくい状況に大きな変化はないと予測される。	K3	すごぼりの桜並木	対象事業実施区域の東に位置（約1.5km）する主要な眺望点。水路に沿って桜並木が整備され、並木越しに水田を挟んで市街地建築物群の先に対象事業実施区域を望む。なお、背後は広く水田が広がる。	新施設の東部が中景域 [※] に視認され、景観の主体となりうる状況に大きな変化はない。新施設では工場棟の矩形の長辺側を視認することとなり、現行施設よりも幅が広く、かつ高さもわずかに増して見えるものの、垂直視角、水平見込角ともに変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用することにより、景観への影響は低減されると予測される。	K4	南6-79号線	対象事業実施区域の北に位置（約0.4km）する眺望点。対象事業実施区域及びその周辺施設への主要なアクセス道路であり、対象事業実施区域を正面に望む。なお、背後は高速道に遮られ眺望は望めない。	新施設の北部が近景域 [※] に視認され、現施設に比べ正面に視認されるため、景観の主体として施設の要素やディテールが目につきやすい状況である。一方で現施設が視認された右手方向には広がりが増す。施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用すること、外周部等への植栽により周辺との調和を図ることにより、景観への影響は低減されると予測される。	K5	亀田大月地区	対象事業実施区域の東に位置（約0.3km）する眺望点。対象事業実施区域に最も近い保全施設等が存在する住宅地であり、植込み・樹木越しに対象事業実施区域を望む。なお、背後は住居や事業所に遮られ眺望は望めない。	新施設の東部が近景域 [※] に視認され、景観の主体として施設の要素やディテールが目につきやすい状況に大きな変化はない。また、現行施設よりも手前に建造されるため、仰角がやや増すものの、住居や樹木に遮られ、視認される範囲は限られることから、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用することにより、景観への影響は低減されると予測される。
		地点番号			眺望点	眺望特性	眺望景観の変化の状況																					
		K1			亀田排水路公園	対象事業実施区域の最も近傍に位置（南に約0.7km）する主要な眺望点。対象事業実施区域に向かって手前に水田が広がり、正面に現行施設を望む。なお、背後は住宅地で眺望は望めない。	新施設の南部が中景域に視認され、景観の主体となりうる状況に大きな変化はない。新施設では工場棟の矩形の短辺側を視認することとなり、現行施設よりも幅が狭く、一方で高さが増して見えるものの、仰角の変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用すること、外周部等への植栽により周辺との調和を図ることにより、景観への影響は低減されると予測される。																					
		K2			山二ツ諏訪神社	対象事業実施区域の北に位置（約1.3km）する主要な眺望点。山二ツ地区の住宅地内の高台（微高地）に位置し、住居の屋根や立ち木越しに対象事業実施区域を望む。なお、背後は境内の社叢で眺望は望めない。	新施設の北部が高速道を挟んで中景域に視認されるが、樹木等に遮られ、現行施設よりもさらに視認しにくくなっており、景観の主体とはなりにくい状況である。樹木等が伐採等改変を受けると視認され易くなると予想されるものの、住居屋根や高速道に遮られ景観の主体とはなりにくい状況に大きな変化はないと予測される。																					
		K3			すごぼりの桜並木	対象事業実施区域の東に位置（約1.5km）する主要な眺望点。水路に沿って桜並木が整備され、並木越しに水田を挟んで市街地建築物群の先に対象事業実施区域を望む。なお、背後は広く水田が広がる。	新施設の東部が中景域 [※] に視認され、景観の主体となりうる状況に大きな変化はない。新施設では工場棟の矩形の長辺側を視認することとなり、現行施設よりも幅が広く、かつ高さもわずかに増して見えるものの、垂直視角、水平見込角ともに変化はごくわずかであり、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用することにより、景観への影響は低減されると予測される。																					
K4	南6-79号線	対象事業実施区域の北に位置（約0.4km）する眺望点。対象事業実施区域及びその周辺施設への主要なアクセス道路であり、対象事業実施区域を正面に望む。なお、背後は高速道に遮られ眺望は望めない。	新施設の北部が近景域 [※] に視認され、現施設に比べ正面に視認されるため、景観の主体として施設の要素やディテールが目につきやすい状況である。一方で現施設が視認された右手方向には広がりが増す。施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用すること、外周部等への植栽により周辺との調和を図ることにより、景観への影響は低減されると予測される。																									
K5	亀田大月地区	対象事業実施区域の東に位置（約0.3km）する眺望点。対象事業実施区域に最も近い保全施設等が存在する住宅地であり、植込み・樹木越しに対象事業実施区域を望む。なお、背後は住居や事業所に遮られ眺望は望めない。	新施設の東部が近景域 [※] に視認され、景観の主体として施設の要素やディテールが目につきやすい状況に大きな変化はない。また、現行施設よりも手前に建造されるため、仰角がやや増すものの、住居や樹木に遮られ、視認される範囲は限られることから、変化の程度は小さいと予測される。また、施設外観は現時点では未定であるが、施設詳細設計時に、「新潟市景観計画における景観形成基準」に基づき、周囲と調和し違和感、圧迫感の少ない意匠・色彩を採用することにより、景観への影響は低減されると予測される。																									

表 10.2.10 環境影響評価結果の概要（廃棄物）

環境要素	影響要因	予測結果	環境保全措置	評価結果																																																																																																	
廃棄物	工事の実施	<p>(1) 残土の発生量及び処理方法 新施設建設工事に伴い発生する建設残土（建設発生土）の発生量を下表に示す。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>建設残土の発生量及び処理方法</caption> <thead> <tr> <th>廃棄物の種類</th> <th>単位</th> <th>発生量</th> <th>場内利用</th> <th>再利用後の発生量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残土（建設発生土）</td> <td>m³</td> <td>39,700</td> <td>33,400</td> <td>6,300</td> </tr> </tbody> </table> <p>施設の設置工事（基礎・地下躯体）に伴う発生土は盛土等として場内利用を行い余剰分については、場外再利用又は適正処分する計画である。なお、現施設の解体工事による残土の発生は想定されない。</p> <p>(2) 建設副産物の発生量及び処理方法 新施設建設工事及び現施設解体工事に伴う建設副産物の発生量及び処理方法を下表に示す。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>建設残土の発生量及び処理方法</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">発生量（t）</th> <th rowspan="2">資源化量（t）</th> <th rowspan="2">処理方法</th> </tr> <tr> <th>新施設建設工事</th> <th>現施設解体工事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>コンクリートがら</td><td>7,170</td><td>39,640</td><td>46,810</td><td>再資源化</td></tr> <tr><td>アスファルト・コンクリートがら</td><td>30</td><td>690</td><td>720</td><td>再資源化</td></tr> <tr><td>耐火材（資源化物）</td><td>0</td><td>100</td><td>100</td><td>再資源化</td></tr> <tr><td>耐火材</td><td>0</td><td>470</td><td>0</td><td>最終処分</td></tr> <tr><td>ALC</td><td>0</td><td>50</td><td>0</td><td>最終処分</td></tr> <tr><td>ガラス・陶磁器くず</td><td>50</td><td>10</td><td>0</td><td>最終処分</td></tr> <tr><td>廃プラスチック類</td><td>70</td><td>30</td><td>50</td><td>再資源化・最終処分</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>370</td><td>5,380</td><td>5,700</td><td>再資源化</td></tr> <tr><td>木くず</td><td>90</td><td>80</td><td>90</td><td>再資源化・最終処分</td></tr> <tr><td>紙くず・繊維くず</td><td>30</td><td>10</td><td>20</td><td>再資源化・最終処分</td></tr> <tr><td>廃石膏ボード</td><td>50</td><td>80</td><td>30</td><td>再資源化・最終処分</td></tr> <tr><td>石綿含有産業廃棄物</td><td>0</td><td>40</td><td>0</td><td>最終処分</td></tr> <tr><td>その他</td><td>120</td><td>220</td><td>60</td><td>再資源化・最終処分</td></tr> <tr><td>混合廃棄物</td><td>110</td><td>50</td><td>60</td><td>再資源化・最終処分</td></tr> <tr><td>汚泥</td><td>13,810</td><td>—</td><td>13,270</td><td>場内利用・再資源化・最終処分</td></tr> <tr><td>合計</td><td>21,900</td><td>46,850</td><td>66,910</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>建設副産物については、分別の徹底を図り、可能な限り再利用・資源化を行うものとする。</p>	廃棄物の種類	単位	発生量	場内利用	再利用後の発生量	残土（建設発生土）	m ³	39,700	33,400	6,300	廃棄物の種類	発生量（t）		資源化量（t）	処理方法	新施設建設工事	現施設解体工事	コンクリートがら	7,170	39,640	46,810	再資源化	アスファルト・コンクリートがら	30	690	720	再資源化	耐火材（資源化物）	0	100	100	再資源化	耐火材	0	470	0	最終処分	ALC	0	50	0	最終処分	ガラス・陶磁器くず	50	10	0	最終処分	廃プラスチック類	70	30	50	再資源化・最終処分	金属くず	370	5,380	5,700	再資源化	木くず	90	80	90	再資源化・最終処分	紙くず・繊維くず	30	10	20	再資源化・最終処分	廃石膏ボード	50	80	30	再資源化・最終処分	石綿含有産業廃棄物	0	40	0	最終処分	その他	120	220	60	再資源化・最終処分	混合廃棄物	110	50	60	再資源化・最終処分	汚泥	13,810	—	13,270	場内利用・再資源化・最終処分	合計	21,900	46,850	66,910		<ul style="list-style-type: none"> 発生する土砂については、敷地内での再利用に努める。 建設副産物については、種類に応じた分別を徹底し、適正に再資源化及び処分を行う。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で工事による廃棄物等の環境影響の低減が図られると考える。</p>
	廃棄物の種類	単位	発生量	場内利用	再利用後の発生量																																																																																																
残土（建設発生土）	m ³	39,700	33,400	6,300																																																																																																	
廃棄物の種類	発生量（t）		資源化量（t）	処理方法																																																																																																	
	新施設建設工事	現施設解体工事																																																																																																			
コンクリートがら	7,170	39,640	46,810	再資源化																																																																																																	
アスファルト・コンクリートがら	30	690	720	再資源化																																																																																																	
耐火材（資源化物）	0	100	100	再資源化																																																																																																	
耐火材	0	470	0	最終処分																																																																																																	
ALC	0	50	0	最終処分																																																																																																	
ガラス・陶磁器くず	50	10	0	最終処分																																																																																																	
廃プラスチック類	70	30	50	再資源化・最終処分																																																																																																	
金属くず	370	5,380	5,700	再資源化																																																																																																	
木くず	90	80	90	再資源化・最終処分																																																																																																	
紙くず・繊維くず	30	10	20	再資源化・最終処分																																																																																																	
廃石膏ボード	50	80	30	再資源化・最終処分																																																																																																	
石綿含有産業廃棄物	0	40	0	最終処分																																																																																																	
その他	120	220	60	再資源化・最終処分																																																																																																	
混合廃棄物	110	50	60	再資源化・最終処分																																																																																																	
汚泥	13,810	—	13,270	場内利用・再資源化・最終処分																																																																																																	
合計	21,900	46,850	66,910																																																																																																		
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>(1) 施設の稼働に伴う廃棄物の発生量及び処理方法 施設の稼働により、年間約 8,770t の焼却主灰及び約 4,000t の焼却飛灰が発生すると予測する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新潟市一般廃棄物処理基本計画（令和2年3月）に掲げられた施策として、リデュース、リユース、リサイクルについての意識啓発を行い、ごみの減量を促進する。 適正な燃焼管理により、灰の未燃分発生量を減少させる。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で施設の稼働による廃棄物等の環境影響の低減が図られると考える。</p>																																																																																																	

表 10.2.11 環境影響評価結果の概要（温室効果ガス等）（1/2）

環境要素	影響要因	予測結果	環境保全措置	評価結果																																																					
温室効果ガス等	工事の実施	<p>(1) 建設機械の稼働・資材運搬等の車両の運行に伴う温室効果ガス排出量 建設機械の稼働・資材運搬等の車両の運行に伴う温室効果ガス排出量を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">建設機械の稼働・資材運搬等の車両の運行に伴う温室効果ガス排出量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">活動区分</th> <th rowspan="2">車種等区分</th> <th colspan="3">温室効果ガス排出量(tCO₂/工事中)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>小計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新施設の建設工事</td> <td>建設機械</td> <td>4,330</td> <td rowspan="3">5,084</td> <td rowspan="3">6,544</td> </tr> <tr> <td>大型車</td> <td>534</td> </tr> <tr> <td>小型車</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">現施設の解体工事</td> <td>建設機械</td> <td>1,400</td> <td rowspan="3">1,460</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>大型車</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>小型車</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <p>工事期間全体の温室効果ガス排出量は、新施設の建設工事で 5,084 tCO₂/工事中、現施設の解体工事で 1,460 tCO₂/工事中、合計 6,544 tCO₂/工事中と予測する。</p>	活動区分	車種等区分	温室効果ガス排出量(tCO ₂ /工事中)				小計	合計	新施設の建設工事	建設機械	4,330	5,084	6,544	大型車	534	小型車	220	現施設の解体工事	建設機械	1,400	1,460		大型車	9	小型車	51	<ul style="list-style-type: none"> 排出ガス対策型建設機械を使用する。 アイドリングストップや空ぶかしの防止を徹底する。 最新の排出ガス規制適合車を使用する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で工事に伴う温室効果ガスの環境影響の低減が図られると考える。</p>																											
	活動区分	車種等区分			温室効果ガス排出量(tCO ₂ /工事中)																																																				
			小計	合計																																																					
新施設の建設工事	建設機械	4,330	5,084	6,544																																																					
	大型車	534																																																							
	小型車	220																																																							
現施設の解体工事	建設機械	1,400	1,460																																																						
	大型車	9																																																							
	小型車	51																																																							
土地又は工作物の存在及び供用	施設の稼働	<p>(1) 施設の稼働に伴う温室効果ガス排出量 施設の稼働に伴う温室効果ガス排出量について、4 施設体制を継続した場合、2 施設体制に移行した場合の総排出量の予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">施設の稼働に伴う温室効果ガス排出量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">体制</th> <th rowspan="2">施設名</th> <th colspan="5">温室効果ガス排出量(tCO₂/年)</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>廃棄物の焼却</th> <th>燃料の使用</th> <th>電気の使用</th> <th>削減量[※]</th> <th>施設別小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">4 施設</td> <td>亀田清掃センター(現施設)</td> <td>40,688</td> <td>170</td> <td>308</td> <td>△6,901</td> <td>34,265</td> <td rowspan="4">78,204</td> </tr> <tr> <td>新田清掃センター</td> <td>37,440</td> <td>491</td> <td>272</td> <td>△11,791</td> <td>26,412</td> </tr> <tr> <td>鑑潟クリーンセンター</td> <td>6,684</td> <td>3,025</td> <td>1,490</td> <td>△16</td> <td>11,183</td> </tr> <tr> <td>豊栄環境センター</td> <td>5,293</td> <td>155</td> <td>896</td> <td>0</td> <td>6,344</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2 施設</td> <td>亀田清掃センター(新施設)</td> <td>48,334</td> <td>523</td> <td>212</td> <td>△19,745</td> <td>29,324</td> <td rowspan="2">58,813</td> </tr> <tr> <td>新田清掃センター</td> <td>41,757</td> <td>545</td> <td>303</td> <td>△13,116</td> <td>29,489</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 外販電力（太陽光発電を含む）</p> <p>4 施設体制を 2 施設体制とすることにより、温室効果ガスが△ 19,391tCO₂/年削減されると予測する。</p>	体制	施設名	温室効果ガス排出量(tCO ₂ /年)					合計	廃棄物の焼却	燃料の使用	電気の使用	削減量 [※]	施設別小計	4 施設	亀田清掃センター(現施設)	40,688	170	308	△6,901	34,265	78,204	新田清掃センター	37,440	491	272	△11,791	26,412	鑑潟クリーンセンター	6,684	3,025	1,490	△16	11,183	豊栄環境センター	5,293	155	896	0	6,344	2 施設	亀田清掃センター(新施設)	48,334	523	212	△19,745	29,324	58,813	新田清掃センター	41,757	545	303	△13,116	29,489	<ul style="list-style-type: none"> 市内の廃棄物焼却施設を 4 施設から 2 施設に統合し、新施設で効率的な発電を行うことにより、本市全体の廃棄物発電量を向上させる。また、発電した電力を市内施設に供給することで、市域の低炭素化を図る。 新潟市一般廃棄物処理基本計画（令和 2 年 3 月）に掲げられた施策として、リデュース、リユース、リサイクルについての意識啓発を行い、ごみの減量を促進する。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 焼却施設の更新と市内の焼却施設を 4 施設から 2 施設に統合することによる温室効果ガスの削減量の予測結果は 19,391tCO₂/年となり、また、一般廃棄物処理基本計画に基づき、3R によるごみ減量を促進することにより、事業者の実行可能な範囲で温室効果ガスへの環境影響の低減が図られると考える。</p>
体制	施設名	温室効果ガス排出量(tCO ₂ /年)					合計																																																		
		廃棄物の焼却	燃料の使用	電気の使用	削減量 [※]	施設別小計																																																			
4 施設	亀田清掃センター(現施設)	40,688	170	308	△6,901	34,265	78,204																																																		
	新田清掃センター	37,440	491	272	△11,791	26,412																																																			
	鑑潟クリーンセンター	6,684	3,025	1,490	△16	11,183																																																			
	豊栄環境センター	5,293	155	896	0	6,344																																																			
2 施設	亀田清掃センター(新施設)	48,334	523	212	△19,745	29,324	58,813																																																		
	新田清掃センター	41,757	545	303	△13,116	29,489																																																			

表 10.2.11 環境影響評価結果の概要（温室効果ガス等）（2/2）

環境要素	影響要因	予測結果	環境保全措置	評価結果																													
温室効果ガス等	土地又は工作物の存在及び供用 廃棄物運搬の車両の運行	<p>(1) 廃棄物運搬車両の運行に伴う温室効果ガス排出量 廃棄物運搬車両の運行に伴う温室効果ガス排出量を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">廃棄物運搬車両の運行に伴う温室効果ガス排出量</p> <table border="1" data-bbox="461 371 1180 580"> <thead> <tr> <th rowspan="2">体制</th> <th rowspan="2">施設名</th> <th rowspan="2">車種区分</th> <th colspan="2">温室効果ガス排出量(tCO₂/年)</th> </tr> <tr> <th>施設別小計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">4施設</td> <td>亀田清掃センター(現施設)</td> <td>大型車</td> <td>767</td> <td rowspan="4">1,992</td> </tr> <tr> <td>新田清掃センター</td> <td>大型車</td> <td>1,070</td> </tr> <tr> <td>鑑潟クリーンセンター</td> <td>大型車</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>豊栄環境センター</td> <td>大型車</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2施設</td> <td>亀田清掃センター(新施設)</td> <td>大型車</td> <td>1,023</td> <td rowspan="2">2,243 (4施設との差:251)</td> </tr> <tr> <td>新田清掃センター</td> <td>大型車</td> <td>1,220</td> </tr> </tbody> </table> <p>温室効果ガス排出量は、4施設体制の場合 1,992 tCO₂/年、2施設体制の場合 2,243 tCO₂/年と予測する。</p>	体制	施設名	車種区分	温室効果ガス排出量(tCO ₂ /年)		施設別小計	合計	4施設	亀田清掃センター(現施設)	大型車	767	1,992	新田清掃センター	大型車	1,070	鑑潟クリーンセンター	大型車	64	豊栄環境センター	大型車	91	2施設	亀田清掃センター(新施設)	大型車	1,023	2,243 (4施設との差:251)	新田清掃センター	大型車	1,220	<ul style="list-style-type: none"> 最新の排出ガス規制適合車の導入を求める。 アイドリングストップや空ぶかしの防止を求める。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減 左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で温室効果ガスへの環境影響の低減が図られると考える。</p>
	体制	施設名				車種区分	温室効果ガス排出量(tCO ₂ /年)																										
施設別小計			合計																														
4施設	亀田清掃センター(現施設)	大型車	767	1,992																													
	新田清掃センター	大型車	1,070																														
	鑑潟クリーンセンター	大型車	64																														
	豊栄環境センター	大型車	91																														
2施設	亀田清掃センター(新施設)	大型車	1,023	2,243 (4施設との差:251)																													
	新田清掃センター	大型車	1,220																														
施設の稼働・廃棄物運搬の車両の運行	<p>(1) 施設の供用に伴い発生する温室効果ガスの影響（施設の稼働、廃棄物運搬車両の運行の計） 施設の稼働、廃棄物運搬車両の運行を合わせた、本事業により、焼却施設の更新と市内の焼却施設を4施設から2施設に統合することによる温室効果ガス排出量の変化の予測結果を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">事業の実施（施設の統合）による温室効果ガスの変化の予測結果</p> <table border="1" data-bbox="439 831 1202 1139"> <thead> <tr> <th rowspan="2">体制</th> <th colspan="3">温室効果ガス排出量(tCO₂/年)</th> </tr> <tr> <th>施設の稼働</th> <th>廃棄物運搬車両の運行</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4施設（現行の体制） 〔 亀田清掃センター(現施設) 新田清掃センター 鑑潟クリーンセンター 豊栄環境センター 〕</td> <td>78,204</td> <td>1,992</td> <td>80,196</td> </tr> <tr> <td>2施設（本事業による体制） 〔 亀田清掃センター(新施設) 新田清掃センター 〕</td> <td>58,813</td> <td>2,243</td> <td>61,056</td> </tr> <tr> <td>本事業による変化</td> <td>△19,391</td> <td>+251</td> <td>△19,140</td> </tr> </tbody> </table> <p>統合により廃棄物の運搬距離が延びるため、廃棄物運搬車両の運行による温室効果ガスの排出量は増加するが、発電量の増加等により、施設の稼働に伴う排出量が大きく減少することから、合計で、19,140 tCO₂/年の温室効果ガス排出量が削減されるものと予測する。</p>	体制	温室効果ガス排出量(tCO ₂ /年)			施設の稼働	廃棄物運搬車両の運行	合計	4施設（現行の体制） 〔 亀田清掃センター(現施設) 新田清掃センター 鑑潟クリーンセンター 豊栄環境センター 〕	78,204	1,992	80,196	2施設（本事業による体制） 〔 亀田清掃センター(新施設) 新田清掃センター 〕	58,813	2,243	61,056	本事業による変化	△19,391	+251	△19,140	前2項のとおり。	前2項のとおり。											
体制	温室効果ガス排出量(tCO ₂ /年)																																
	施設の稼働	廃棄物運搬車両の運行	合計																														
4施設（現行の体制） 〔 亀田清掃センター(現施設) 新田清掃センター 鑑潟クリーンセンター 豊栄環境センター 〕	78,204	1,992	80,196																														
2施設（本事業による体制） 〔 亀田清掃センター(新施設) 新田清掃センター 〕	58,813	2,243	61,056																														
本事業による変化	△19,391	+251	△19,140																														

表 10.2.12 環境影響評価結果の概要（文化財）

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果
文化財	工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 掘削工事の実施・工作物の存在	<p>(1) 埋蔵文化財包蔵地の状況</p> <p>本市歴史文化課において、過去のボーリング調査結果や土地利用の変遷、周辺の埋蔵文化財の分布状況、試掘調査の結果から、埋蔵文化財は発見されず、本事業に係る文化財保護上の取扱いは不要という判断であった。</p> <p>また、歴史文化課の所見として、地下の埋没砂丘には、遺跡が存在する可能性はあるものの、ボーリング調査で確認された砂層は、その深度から埋没砂丘とは考えにくく、また、当該地は、新砂丘Ⅰに当たる亀田砂丘列以北かつ、新砂丘Ⅱに当たる石山砂丘列以南に位置し、砂丘と砂丘の間の谷地形となっている。過去にこの間で埋没砂丘が発見されたことは無いため、遺跡の確認される可能性が低いというものである。</p> <p>なお、試掘調査は、現在の土地利用の状況、旧亀田清掃センターの設置の状況から、過去に大規模掘削を受けていない場所を選定し実施し、調査箇所地の地層の状況と過去のボーリング調査が一致していることを確認している。</p> <p>(2) 予測結果</p> <p>調査結果は、埋蔵文化財は発見されず、文化財保護上の取扱いは不要と判断するとされている。したがって、地形改変後の土地及び施設の存在は埋蔵文化財包蔵地に影響を及ぼさないと予測する。</p>	<p>・ 工事にあたり新たな埋蔵文化財が発見された場合は、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）に基づき、適切に対応する。</p>	<p>(1) 環境影響の回避、低減</p> <p>左記に示す環境保全措置を適切に実施することにより、事業者の実行可能な範囲で埋蔵文化財包蔵地への影響の回避が図られると考える。</p>

表 10.2.13 環境影響評価結果の概要（動物（ハクチョウ類））

環境要素	影響要因	調査・予測結果	環境保全措置	評価結果
動物（ハクチョウ類）	工事の実施	<p>(1) ハクチョウ類等の調査結果</p> <p>① ハクチョウ類の飛行コースの状況</p> <p>無積雪期の調査では、対象事業実施区域の上空を通過したものはなく、その西側又は東側を通過するものがほとんどであった。調査対象地域内（半径 500m）を通過したハクチョウ類の飛行高さは、多くの集団が 20m ないし 40m 以下であり、現施設の煙突高さ（59m）よりも低いものであった。降雪期の調査では、対象事業実施区域の西側又は東側を通過する集団がほとんどであったが、対象事業実施区域上空を通過する集団が 2 集団認められた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音・低振動型の機械・工法を採用する。 ・工事中は、対象事業実施区域周辺に仮囲い等を設置する。 ・建設機械の点検・整備を十分に行う。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減</p> <p>左記に示す環境保全措置を実施することにより、事業者の実施可能な範囲でハクチョウ類への影響の低減が図られると考える。</p>
		<p>② ハクチョウ類の採餌場の状況</p> <p>無積雪期及び降雪期の調査ともに、対象事業実施区域周辺における主な採餌場としては、対象事業実施区域西側の鶴ノ子地内及び南側の船戸山地内の水田が利用されていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の点検・整備を十分に行う。 ・道路交通法の遵守するとともに、アイドリングストップや空ぶかしの防止を徹底する。 	
		<p>③ 重要な種の状況</p> <p>確認されたハクチョウ類は主にコハクチョウであったが、まれにオオハクチョウの集団も認められた。</p> <p>この他に確認された鳥類のうち、重要種はマガン、オオヒシクイの 2 種が挙げられた。</p>		
	土地又は工作物の存在及び供用	<p>(2) 工事の実施及び施設の供用に伴うハクチョウ類等への影響の予測結果</p> <p>新施設は、現在、運動場として使用されている隣接地において同規模の大きさの施設として供用されることから、造成工事及び施設の供用によるハクチョウ類の採餌場の改変及び施設の設置による飛行コースへの影響は軽微であると予測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型・低振動型の設備機器の採用に努める。また、吸音材・緩衝支持装置(防振ゴムなど)等を導入するように努める。 ・設備・機器は原則屋内設置とする。 ・設備・機器の点検を十分に行う。 	<p>(1) 環境影響の回避、低減</p> <p>左記に示す環境保全措置を実施することにより、事業者の実施可能な範囲でハクチョウ類への影響の低減が図られると考える。</p>
		<p>廃棄物運搬車両の運行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の点検・整備を十分に行う。 ・道路交通法の遵守及びアイドリングストップや空ぶかしの防止を求める。 	
		<p>施設の存在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面へのガラスの多用を避ける等の意匠面の配慮を行う。 	